

Ⅲ 市町村別の地域特性

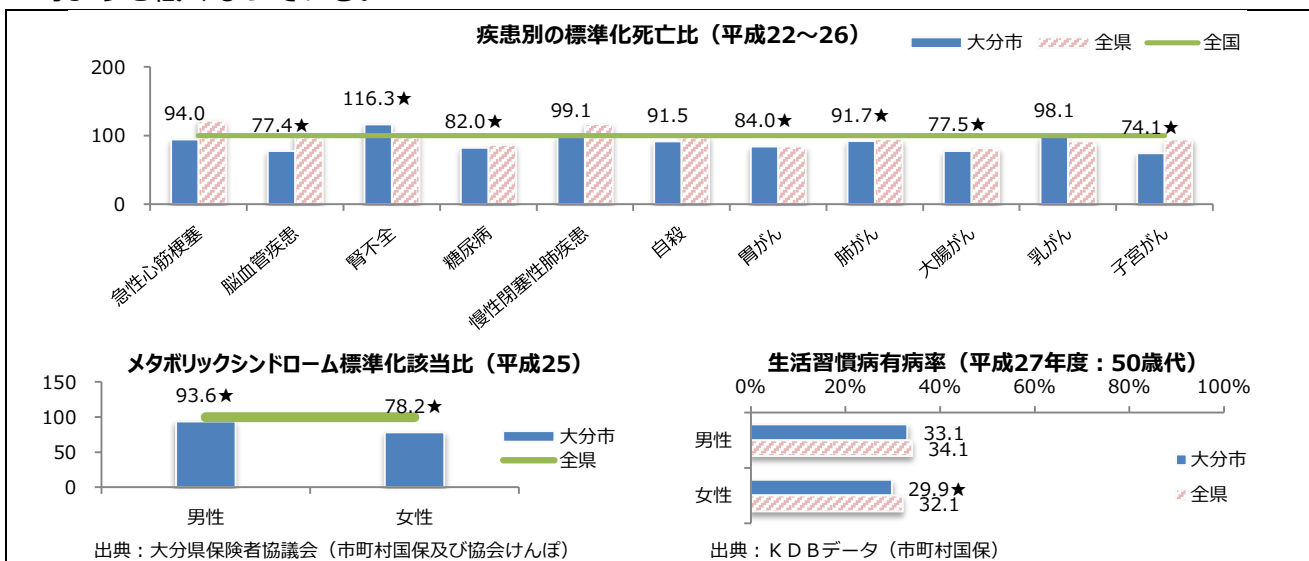
大分市

総人口：478,146人（男性：229,844人 女性：248,302人） 高齢化率：24.7%
 出生数：4,281人/年 出生率（人口千対）：9.0
 死亡数：4,100人/年 死亡率（人口千対）：8.6

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

- ・大分市の標準化死亡比は、腎不全で全国より高く、脳血管疾患、糖尿病、胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がんで低くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比、50歳代の生活習慣病有病率（女性）は、いずれも県平均よりも低くなっている。



出典：大分県保険者協議会（市町村国保及び協会けんぽ）

出典：KDBデータ（市町村国保）

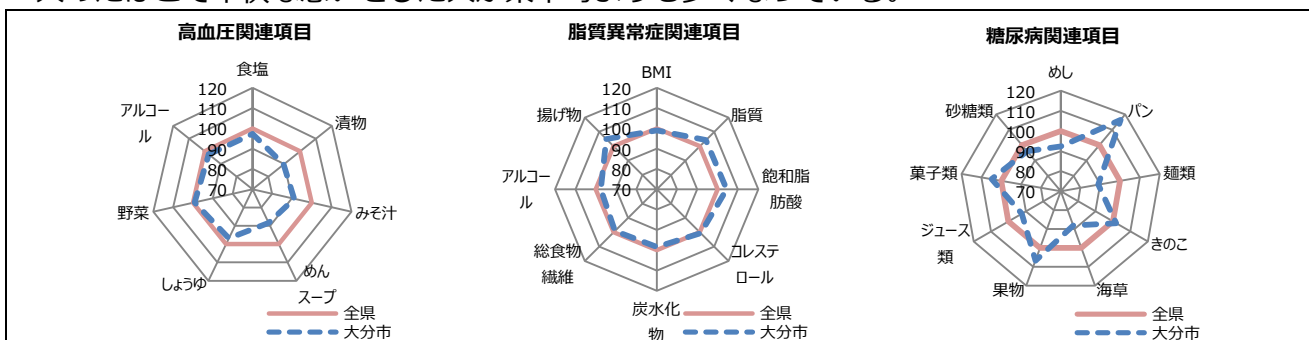
標準化死亡比：全国を100（基準）として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。

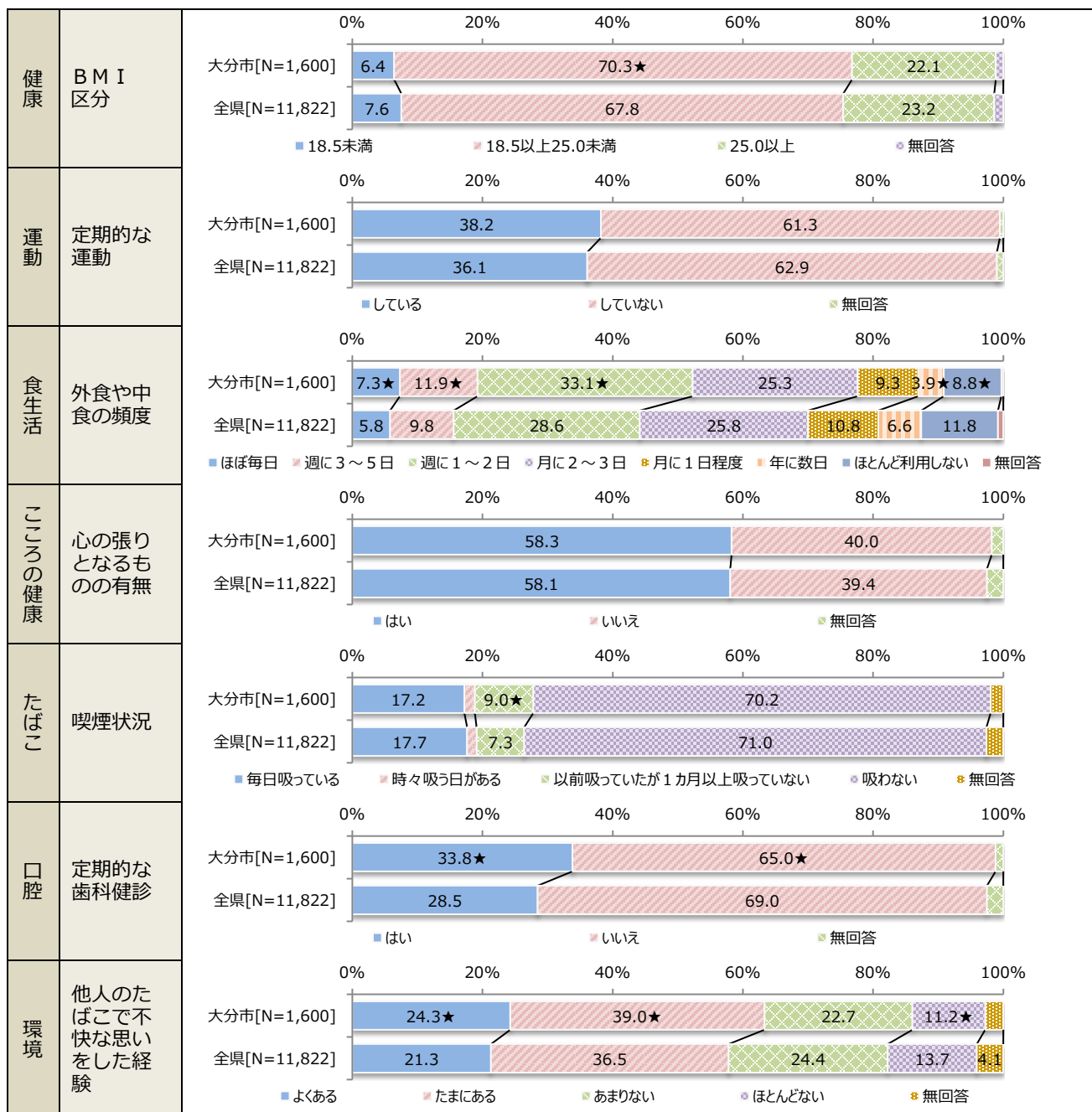
標準化該当比：全県を100（基準）として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。

有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。（標準化死亡比は対全国、その他は対全県）

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、高血圧関連項目については、食塩等の摂取量は県平均より少なくなっている。脂質異常症の関連項目については、揚げ物等の摂取量が県平均より多くなっている。糖尿病関連項目では、パンなどの摂取量が県平均より多くなっている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、県平均と比べて肥満者は少なく、運動習慣のある人が多くなっている。一方、外食や中食を利用する人が多くなっている。喫煙状況は県平均とほぼ同じだが、他人のたばこで不快な思いをした人が県平均よりも多くなっている。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- ・腎不全の死亡率が全国より高くなっている。
- ・県平均と比べて、メタボリックシンドローム該当者は少ない状況となっている。また、50歳代の生活習慣病有病者は女性で少ない状況となっている。
- ・食生活に関しては、県平均と比べて、脂っこいものや、パン食などを好む人が多く、また、外食等をよく利用する人の多い様子がうかがえる。
- ・生活習慣では、運動習慣のある人が比較的多くなっており、肥満者は少ない傾向が見られる。
- ・喫煙者の割合は県平均とそれほど違いはないが、たばこに関しては、他人のたばこで不快な思いをしたことのある人が多く、分煙等の取り組みも重要と考えられる。

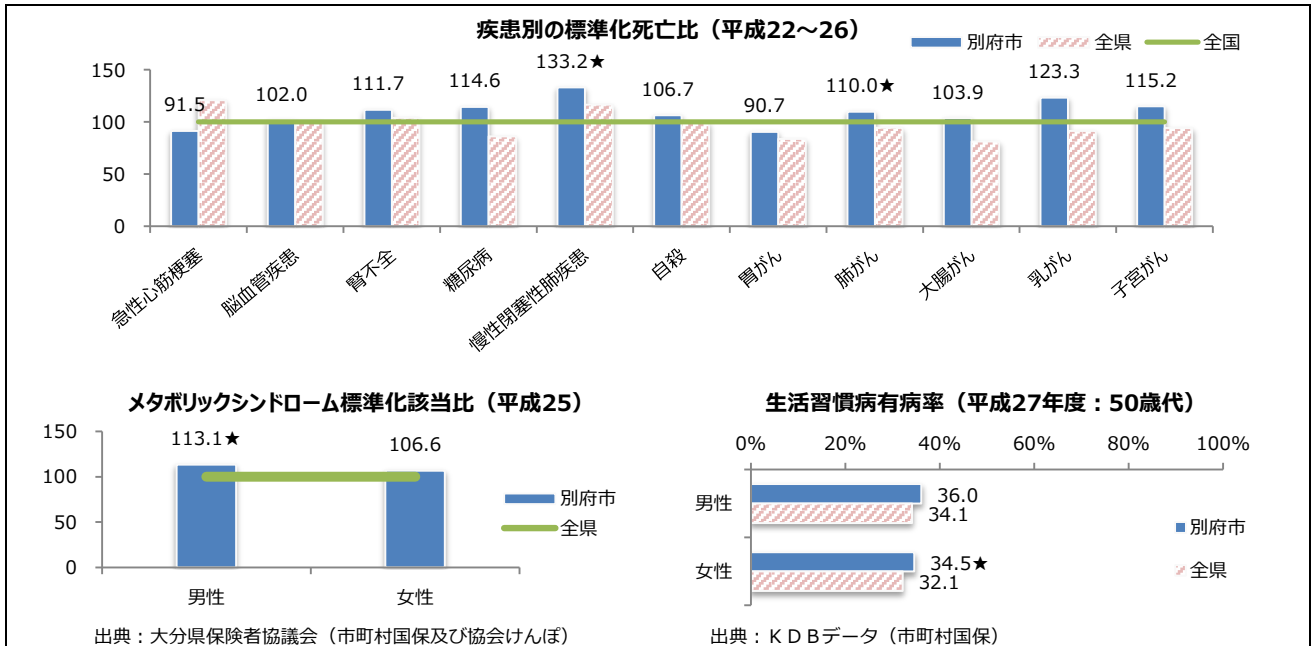
別府市

総人口：122,138人（男性：55,482人 女性：66,656人） 高齢化率：31.7%
 出生数：846人/年 出生率（人口千対）：7.1
 死亡数：1,420人/年 死亡率（人口千対）：12.0

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

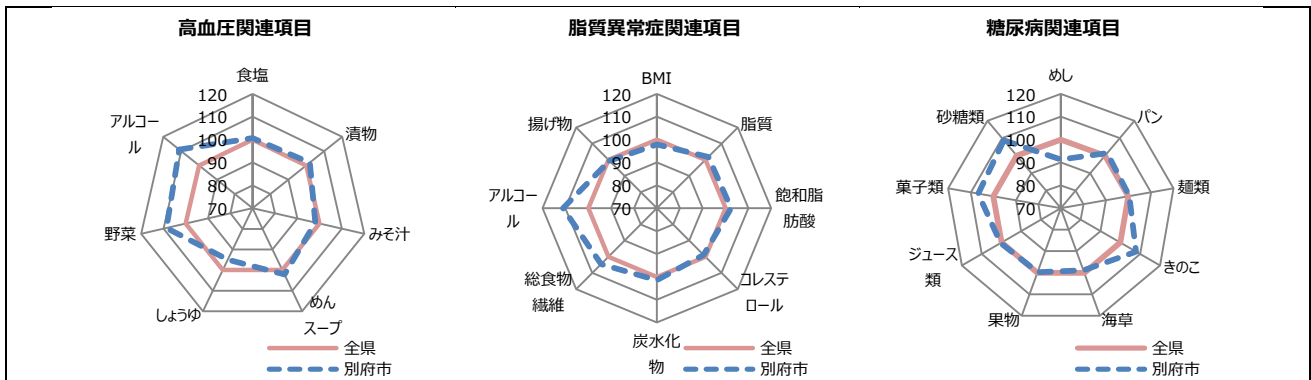
- ・別府市の標準化死亡比は、慢性閉塞性肺疾患、肺がんで全国より高くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比（男性）、50歳代の生活習慣病有病率（女性）が県平均よりも高くなっている。

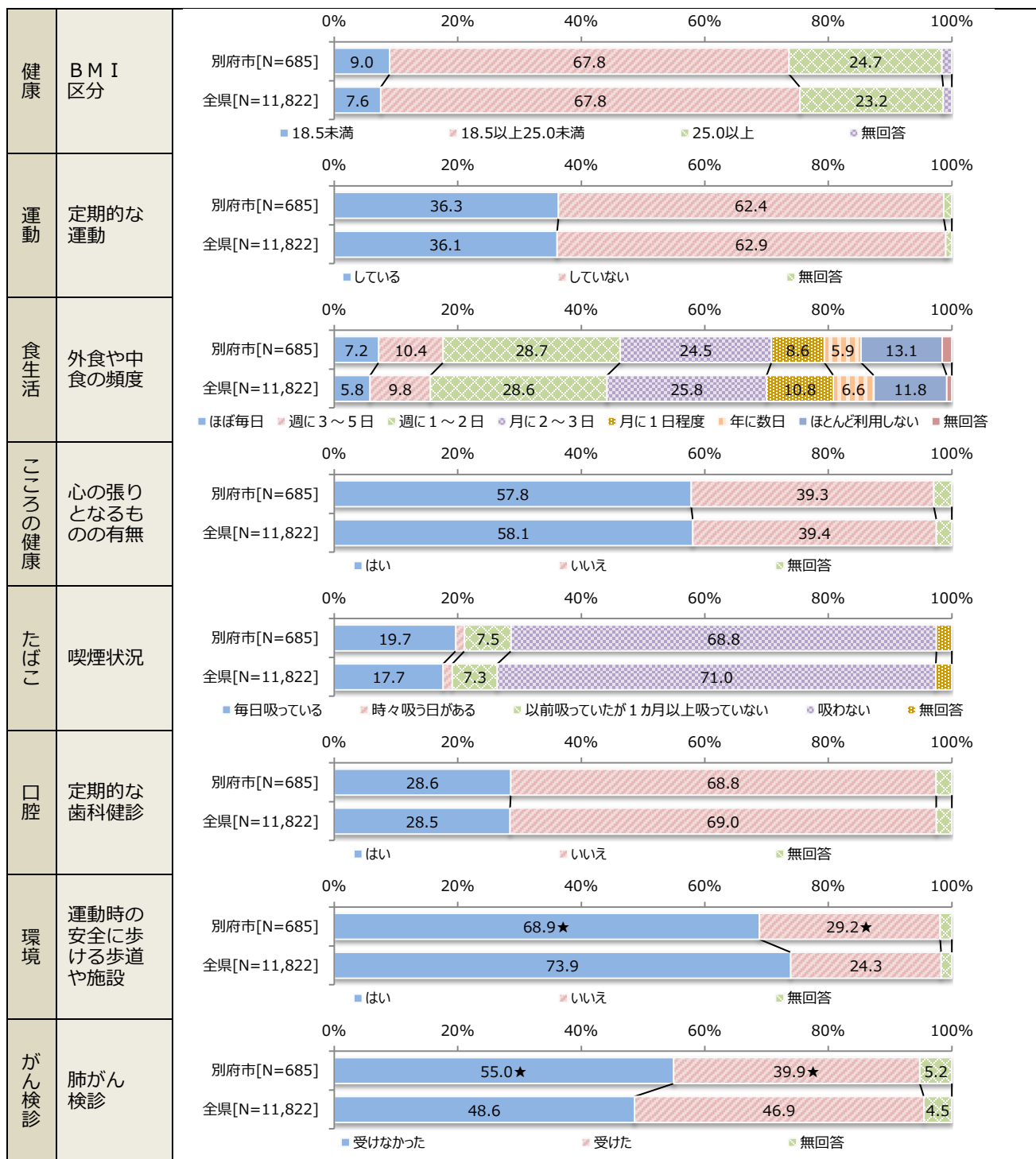


標準化死亡比：全国を100（基準）として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。
 標準化該当比：全県を100（基準）として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。
 有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。（標準化死亡比は対全国、その他は対全県）

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、高血圧関連項目、脂質異常症関連項目で、アルコールの摂取量が県平均より多くなっている。糖尿病関連項目では、菓子類、砂糖類などの摂取量が県平均より多くなっている一方、きのこも多く摂取されている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、肥満者は県平均よりやや多く、外食や中食を利用する人も県平均より多くなっている。運動習慣のある人は県平均とほぼ同じだが、安全な運動場所がないという人が県平均より多くなっている。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- ・県平均と比べて、メタボリックシンドローム該当者が男性で多く、50歳代の生活習慣病有病者が女性で多い状況となっている。
- ・食生活に関しては、県平均と比べて、アルコール摂取が多く、また、菓子類などの摂取、外食等をよく利用する人がやや多い様子がうかがえる。また、朝食を食べない人が、県平均と比べて多くなっている。
- ・生活習慣では、県平均と比べて運動習慣のある人はほぼ同じとなっているが、安全に歩ける歩道や施設がないと感じる人が多くなっている。肺がんや慢性閉塞性肺疾患の死亡率が、全国と比べて高く、喫煙者の割合も県平均よりも高くなっている。一方、肺がん検診を受ける人は県平均と比べて低くなっている。

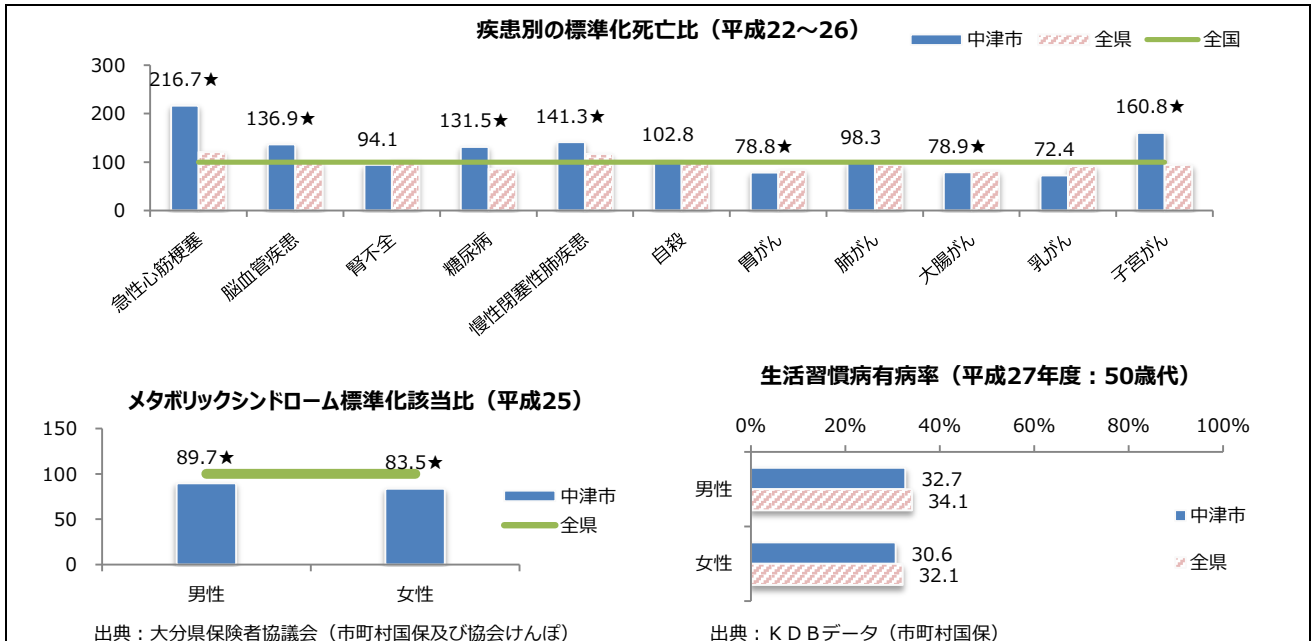
中津市

総人口：83,965人 (男性：40,351人 女性：43,614人) 高齢化率：28.4%
 出生数：809人/年 出生率(人口千対)：9.7
 死亡数：1,003人/年 死亡率(人口千対)：12.0

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

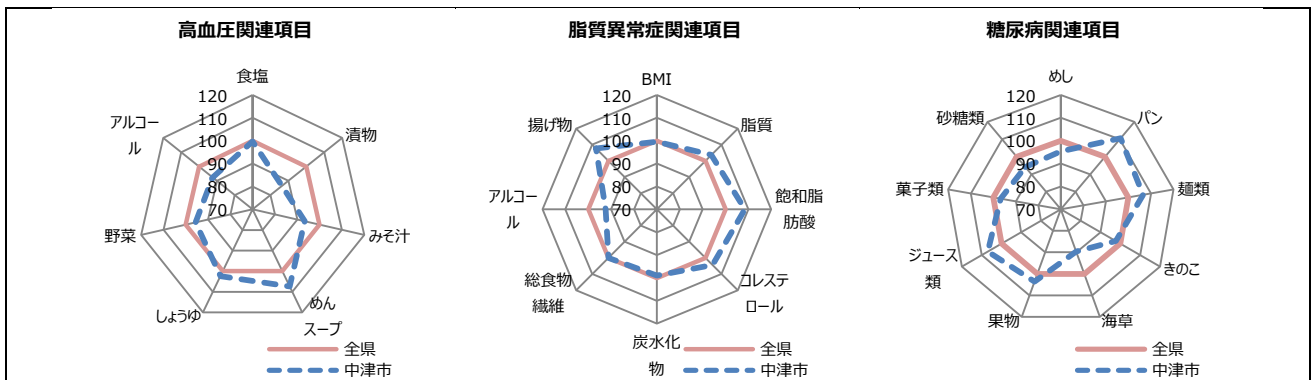
- ・中津市の標準化死亡比は、急性心筋梗塞、脳血管疾患、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患、子宮がんで全国より高く、胃がん、大腸がんで低くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比は、男女とも県平均より低くなっている。

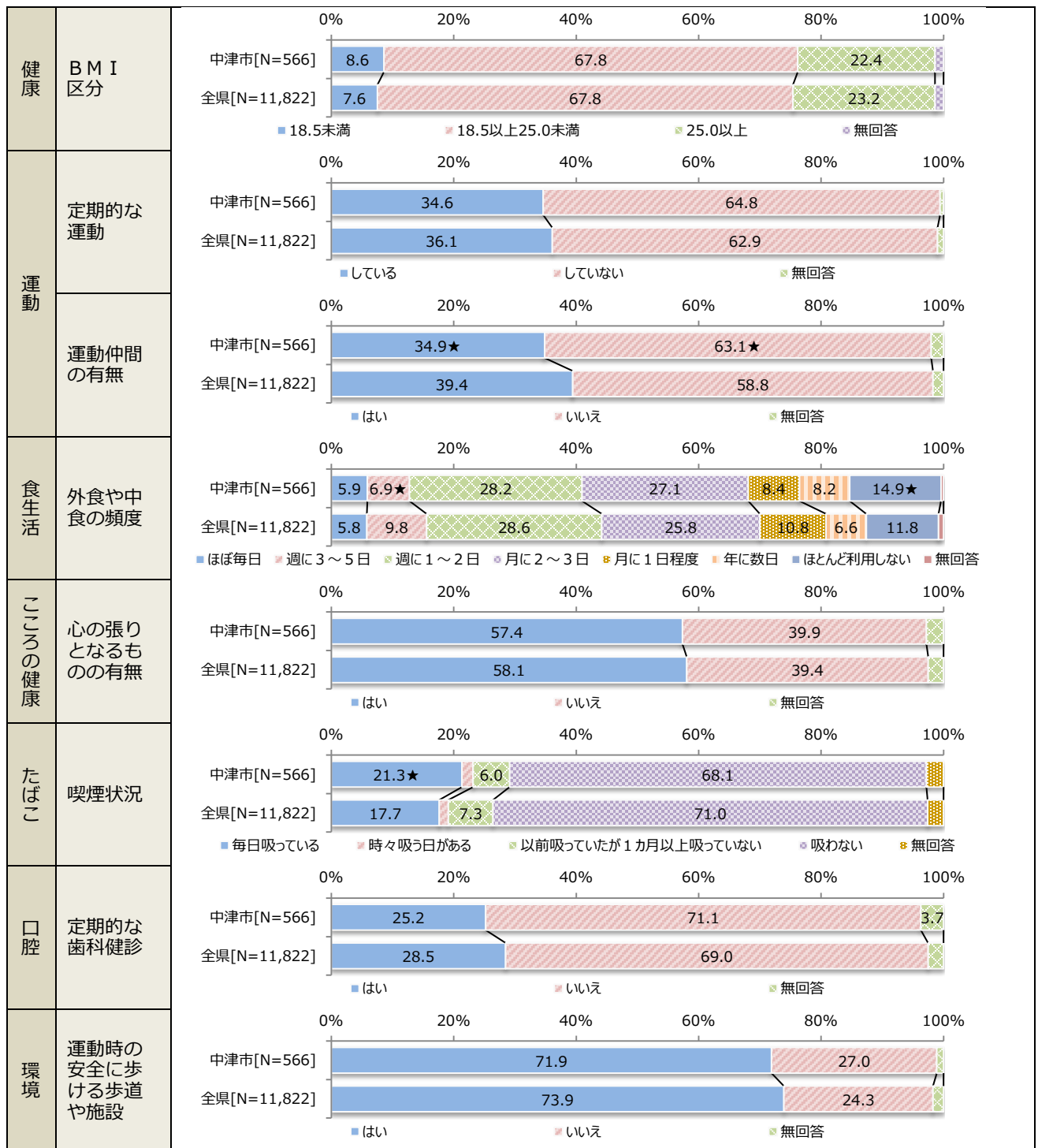


標準化死亡比：全国を100(基準)として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。
 標準化該当比：全県を100(基準)として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。
 有意差(有意水準5%未満)のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。(標準化死亡比は対全国、その他は対全県)

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、高血圧関連項目については、めんすूपの摂取量が県平均より多くなっている。脂質異常症関連項目では、揚げ物等の摂取量が県平均より多くなっている。糖尿病関連項目では、パン、麺類、ジュース類などの摂取量が県平均より多くなっている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、肥満者や運動等は県平均とほぼ同じとなっているが、外食や中食を利用する人は県平均より少なくなっている。運動仲間がいる人は県平均より少なくなっている。喫煙状況は、喫煙者が県平均より多くなっている。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- ・急性心筋梗塞、脳血管疾患、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患、子宮がんの死亡率が全国より高くなっている。
- ・メタボリックシンドローム該当者は県平均より少ない状況となっている。
- ・食生活に関しては、県平均と比べて、脂っこいものや、パン、麺類、ジュース類などを好む人が多くなっている。
- ・生活習慣では、肥満者や運動習慣のある人は県平均とほぼ同じとなっているが、運動仲間が少ない状況である。
- ・喫煙者の割合は県平均より高く、慢性閉塞性肺疾患の死亡率も全国より高い状況である。

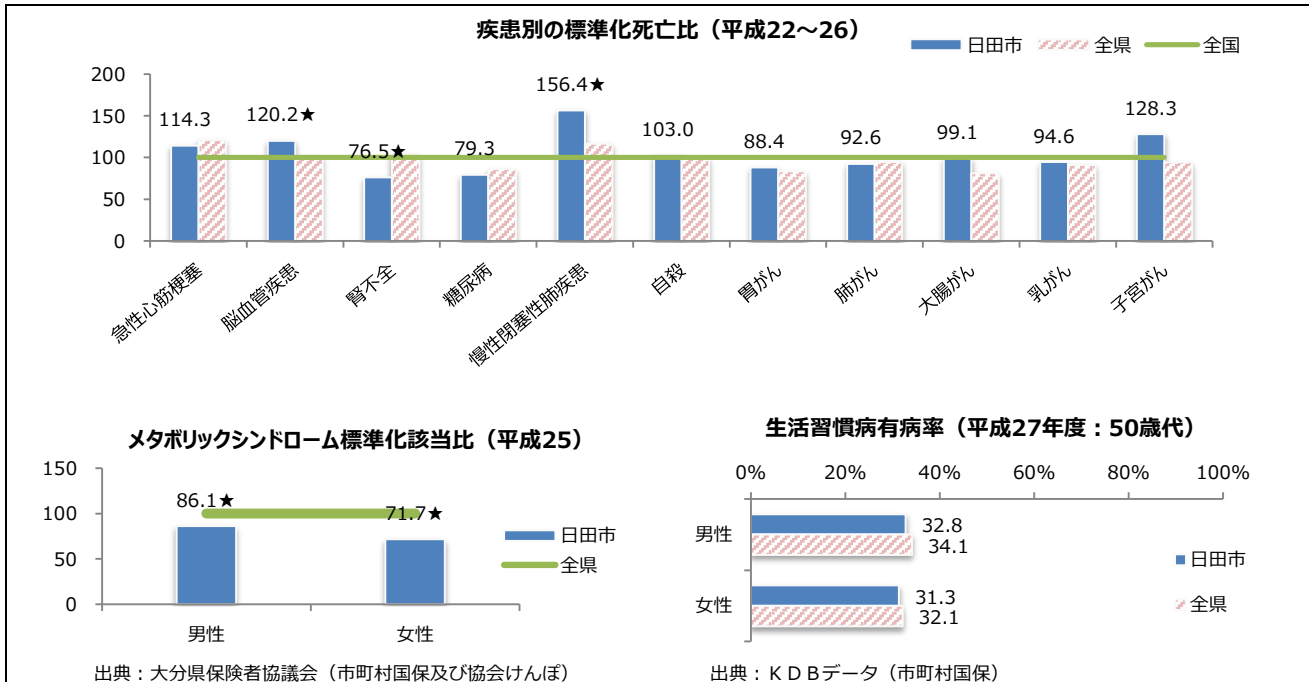
日田市

総人口：66,523人 (男性：31,435人 女性：35,088人) 高齢化率：32.7%
 出生数：494人/年 出生率(人口千対)：7.5
 死亡数：1,004人/年 死亡率(人口千対)：15.1

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

- ・日田市の標準化死亡比は、脳血管疾患、慢性閉塞性肺疾患で全国より高く、腎不全で低くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比は県平均よりも低くなっている。



出典：大分県保険者協議会(市町村国保及び協会けんぽ)

出典：KDBデータ(市町村国保)

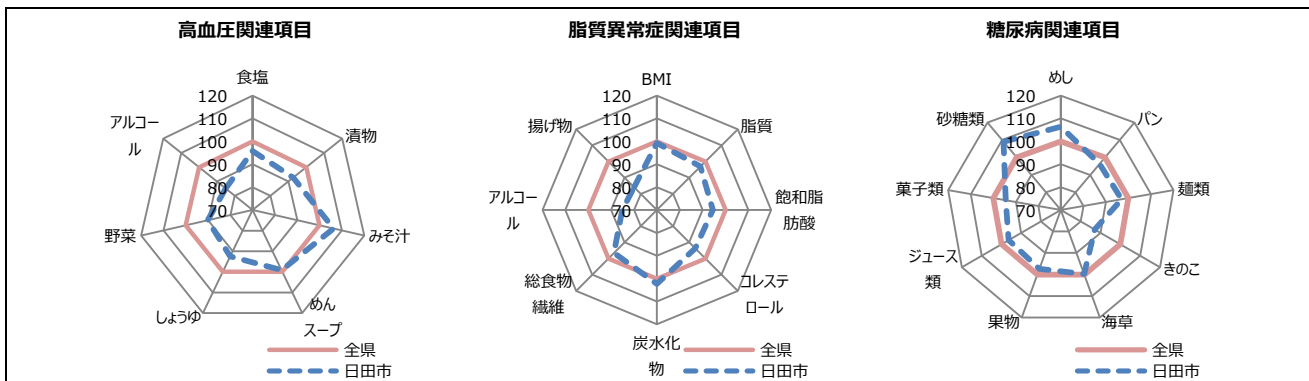
標準化死亡比：全国を100(基準)として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。

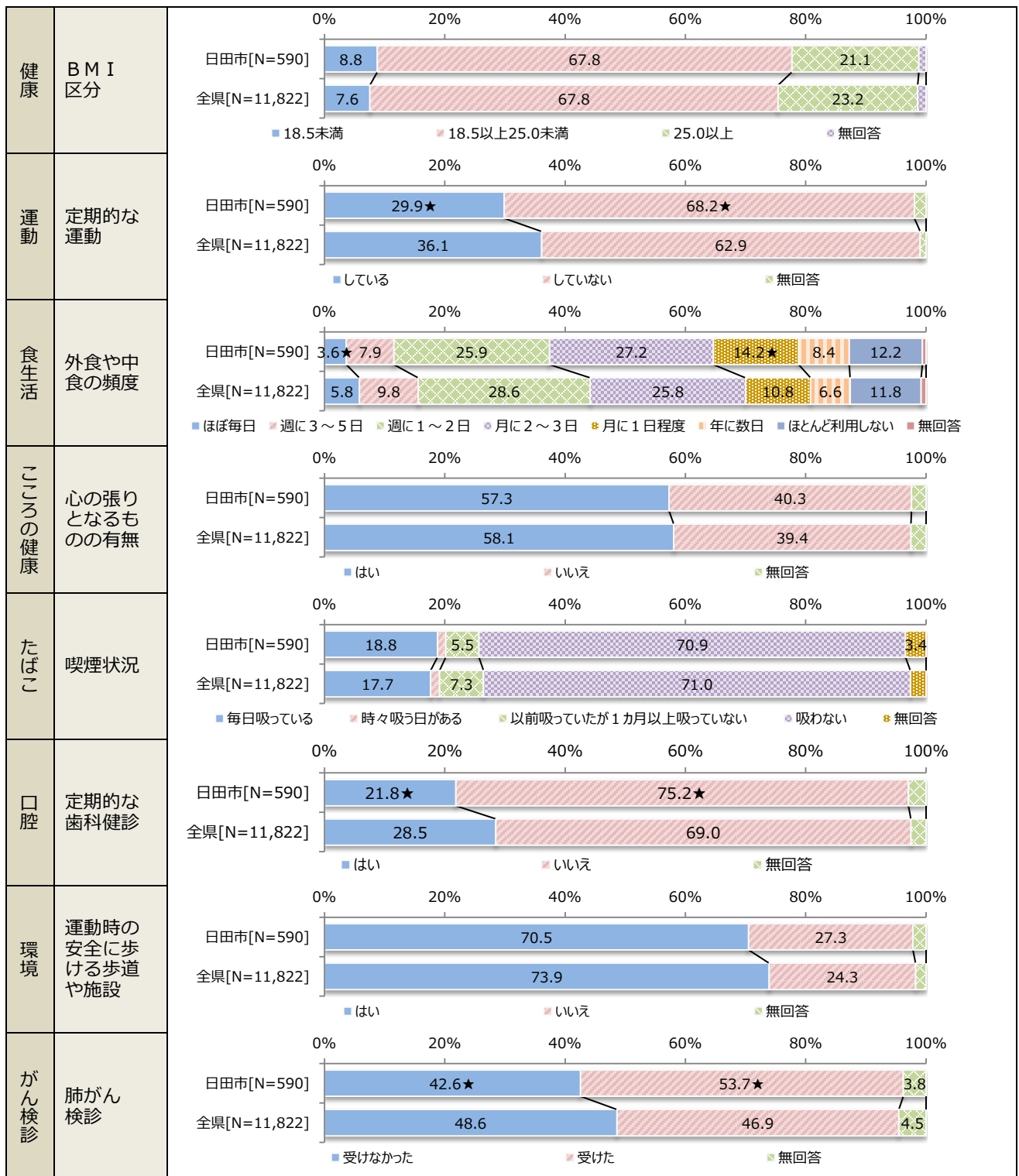
標準化該当比：全県を100(基準)として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。

有意差(有意水準5%未満)のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。(標準化死亡比は対全国、その他は対全県)

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、高血圧関連項目については、みそ汁以外、県平均より少ない項目が多くなっている。糖尿病関連項目では、めし、砂糖類等の摂取量が県平均より多くなっている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、肥満者は県平均よりやや少なくなっている。外食や中食を利用する人は県平均より少なくなっている。定期的な運動をしている人は県平均より少なくなっている。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- ・脳血管疾患、慢性閉塞性肺疾患の死亡率が全国より高くなっている。
- ・県平均と比べて、メタボリックシンドローム該当者は少ない状況となっている。
- ・食生活に関しては、県平均と比べて、みそ汁や砂糖類、めしの摂取が多くなっている。
- ・生活習慣では、運動習慣のある人が県平均より少なく、年代別に見ると40～64歳で少なくなっている。
- ・歯科検診を定期的に受ける人が県平均に比べて少なく、自分の歯の本数も10～19本の人が県平均と比べて多くなっている。

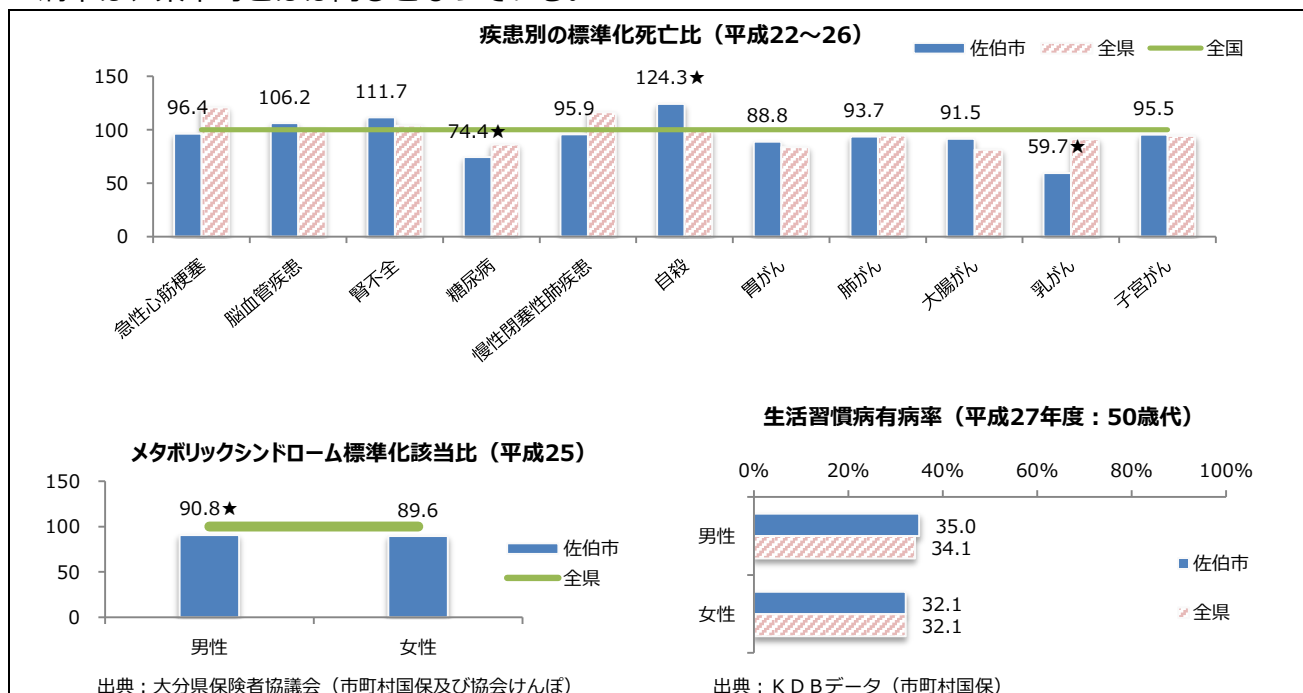
佐伯市

総人口：72,211人 (男性：33,232人 女性：38,979人) 高齢化率：36.9%
 出生数：449人/年 出生率(人口千対)：6.2
 死亡数：1,077人/年 死亡率(人口千対)：15.0

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

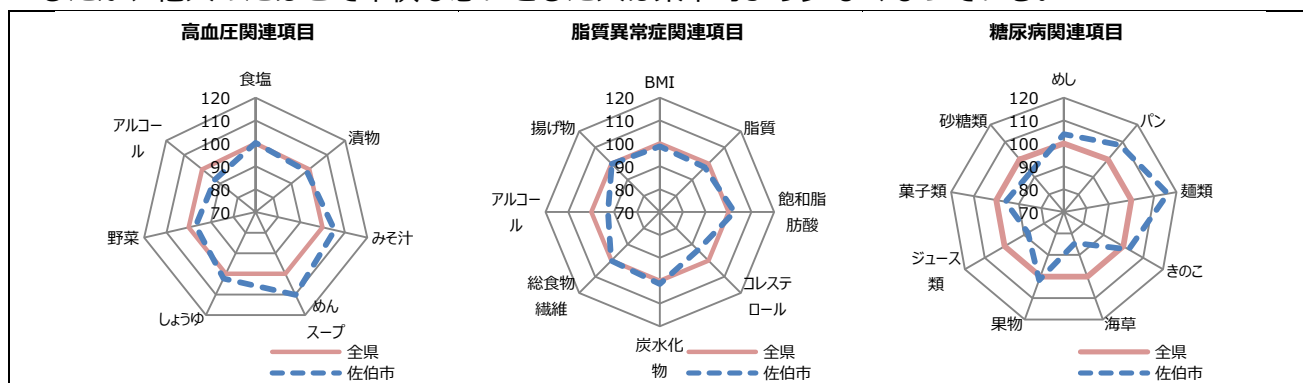
- ・佐伯市の標準化死亡比は、自殺で全国より高く、糖尿病、乳がんで低くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比は県平均よりも低くなっている。50歳代の生活習慣病有病率は、県平均とほぼ同じとなっている。

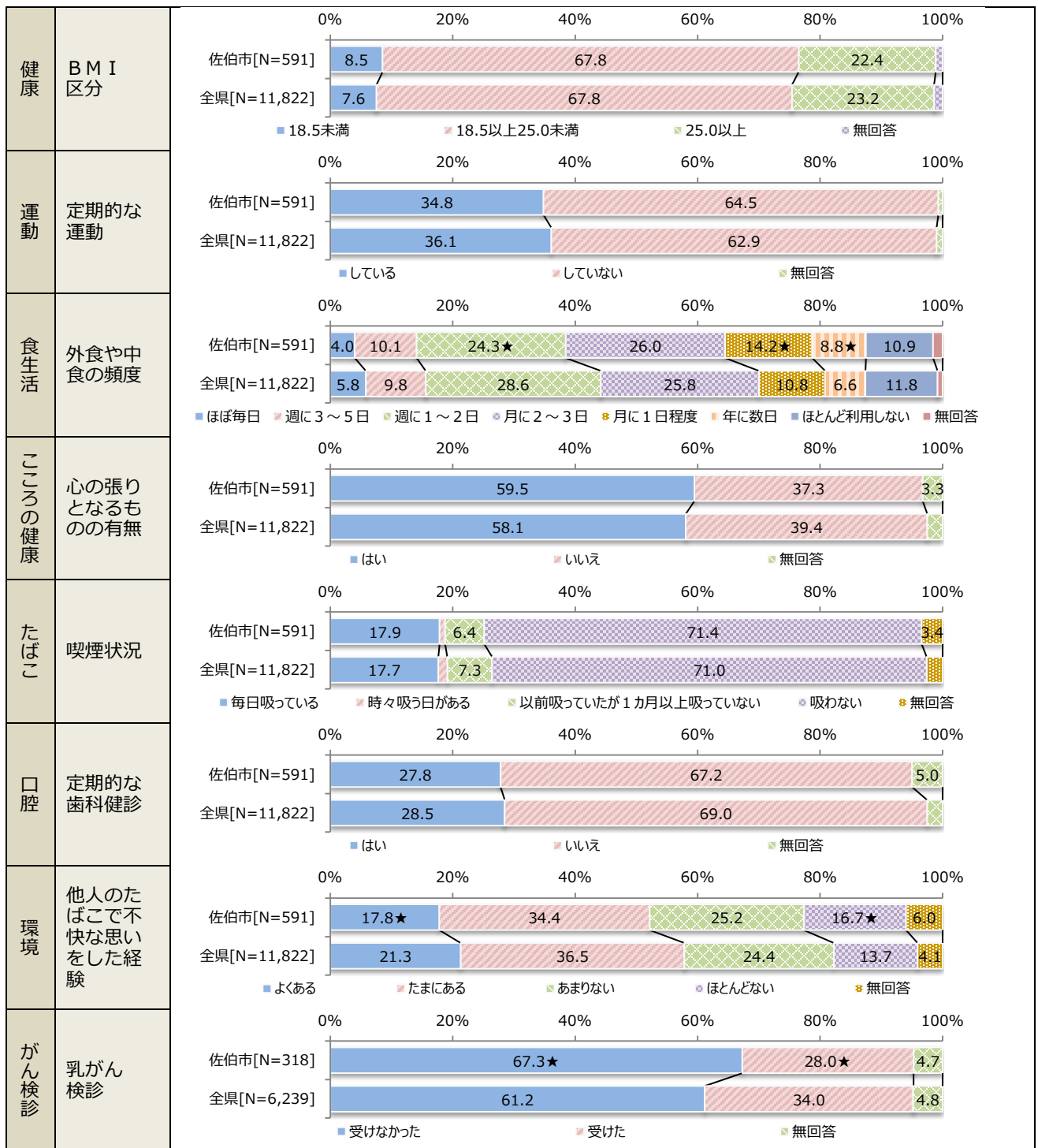


標準化死亡比：全国を100(基準)として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。
 標準化該当比：全県を100(基準)として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。
 有意差(有意水準5%未満)のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。(標準化死亡比は対全国、その他は対全県)

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、高血圧関連項目については、めんスープ等の摂取量が県平均より多くなっている。糖尿病関連項目では、麺類、パンなどの摂取量が県平均より多くなっている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、肥満者は県平均よりやや少なく、一方、やせている人はやや多くなっている。外食や中食を利用する人は県平均より少なくなっている。喫煙者は県平均とほぼ同じだが、他人のたばこで不快な思いをした人は県平均より少なくなっている。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- ・県平均と比べて、メタボリックシンドローム該当者は少なくなっている。
- ・食生活に関しては、県平均と比べて、麺類やパンなどを好む人が多くなっている。
- ・生活習慣では、肥満者は少ない傾向が見られる。
- ・喫煙者の割合は県平均とそれほど違いはないが、他人のたばこで不快な思いをしたことのある人は県平均より少なくなっている。
- ・乳がん検診を受けた人が県平均と比べて少なくなっており、がん検診を受けない理由は「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」という人が最も多くなっている。

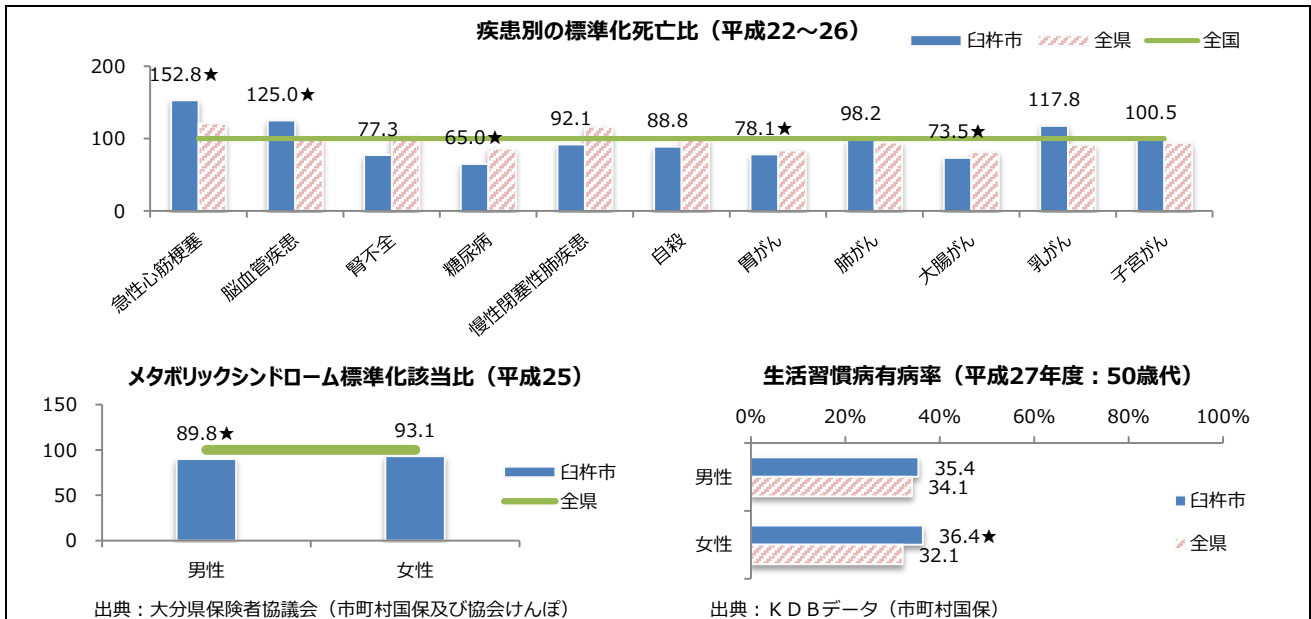
臼杵市

総人口：38,748人 (男性：18,259人 女性：20,489人) 高齢化率：37.7%
 出生数：181人/年 出生率(人口千対)：4.7
 死亡数：598人/年 死亡率(人口千対)：15.5

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

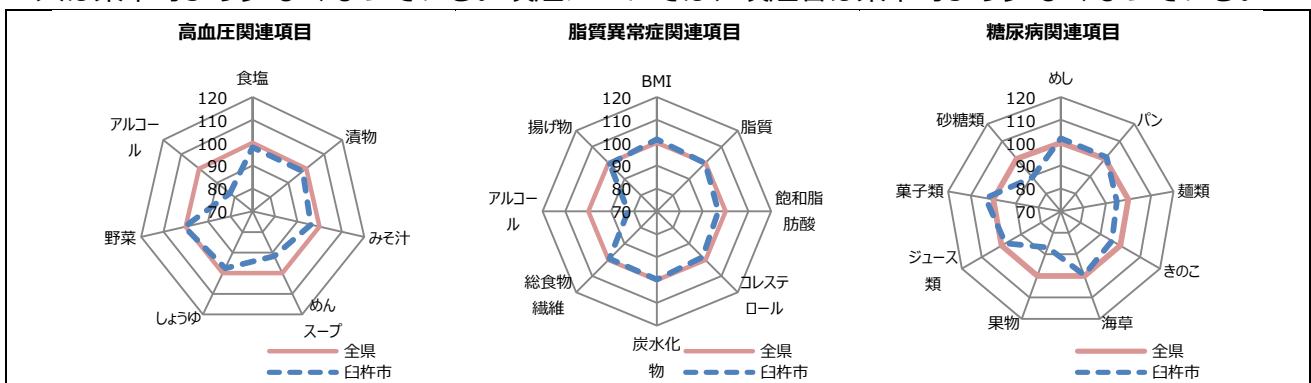
- ・臼杵市の標準化死亡比は、急性心筋梗塞、脳血管疾患で全国より高く、糖尿病、胃がん、大腸がんで低くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比は、男性が県平均よりも低くなっている。50歳代の生活習慣病有病率は、女性で県平均よりも高い割合となっている。

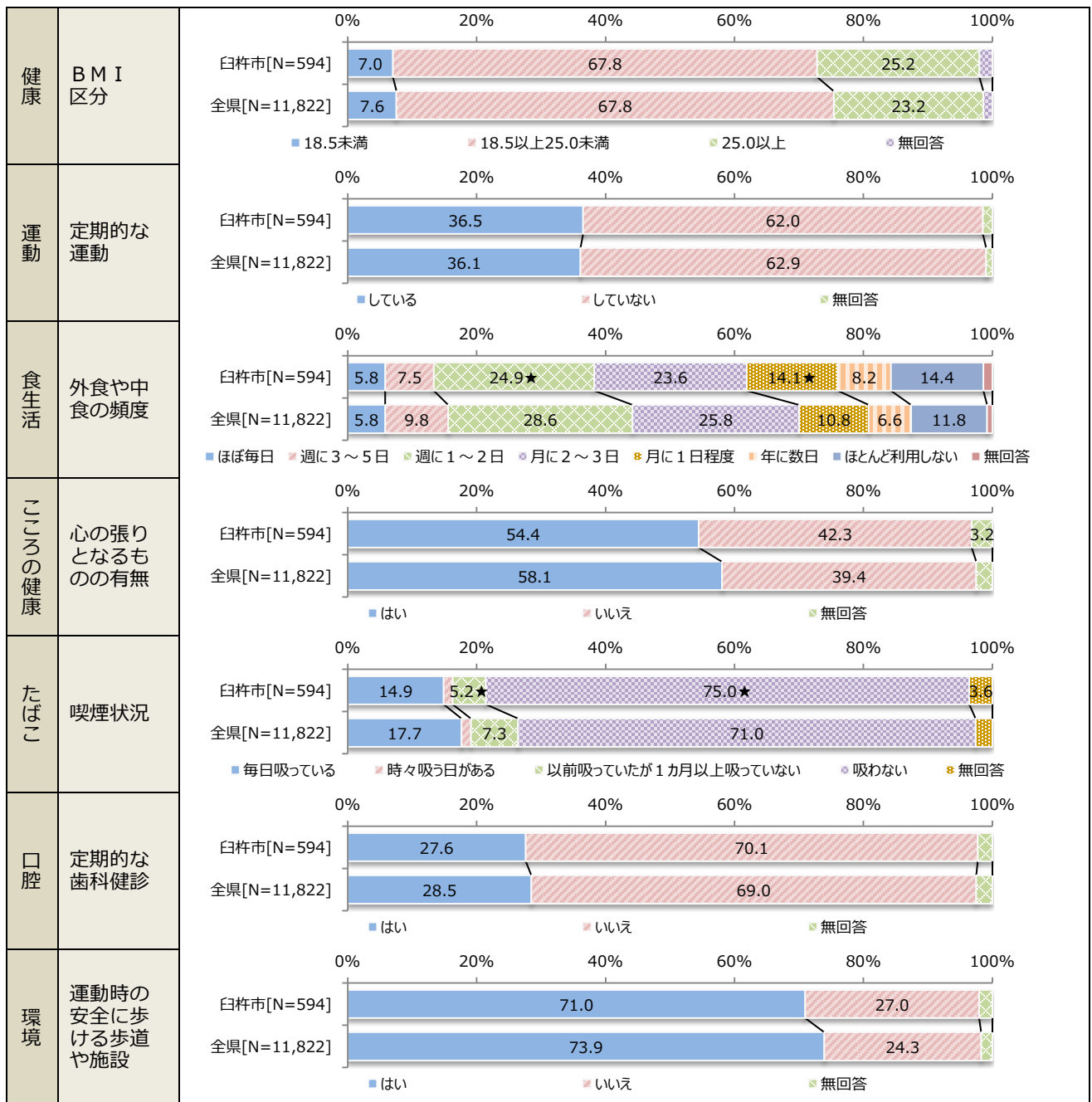


標準化死亡比：全国を100(基準)として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。
 標準化該当比：全県を100(基準)として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。
 有意差(有意水準5%未満)のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。(標準化死亡比は対全国、その他は対全県)

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、高血圧関連項目、脂質異常症関連項目で、アルコールの摂取量が少なくなっている。糖尿病関連項目で、果物、砂糖類等の摂取量が県平均より少なくなっている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、肥満者は県平均よりやや多くなっている。外食や中食を利用する人は県平均より少なくなっている。喫煙については、喫煙者は県平均より少なくなっている。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- ・急性心筋梗塞、脳血管疾患の死亡率が、全国よりも高くなっている。
- ・県平均と比べて、男性のメタボリックシンドロームの該当者が少なく、50歳代の生活習慣病有病者が女性で多い状況となっている。
- ・生活習慣では、肥満者は県平均よりやや多くなっており、40～64歳の女性で運動習慣のある人が少なくなっている。食品の摂取状況は、県平均と比べて、菓子類の摂取が多く、海藻やきのこの摂取が若干少なくなっている。
- ・喫煙者の割合は県平均より少なくなっている。

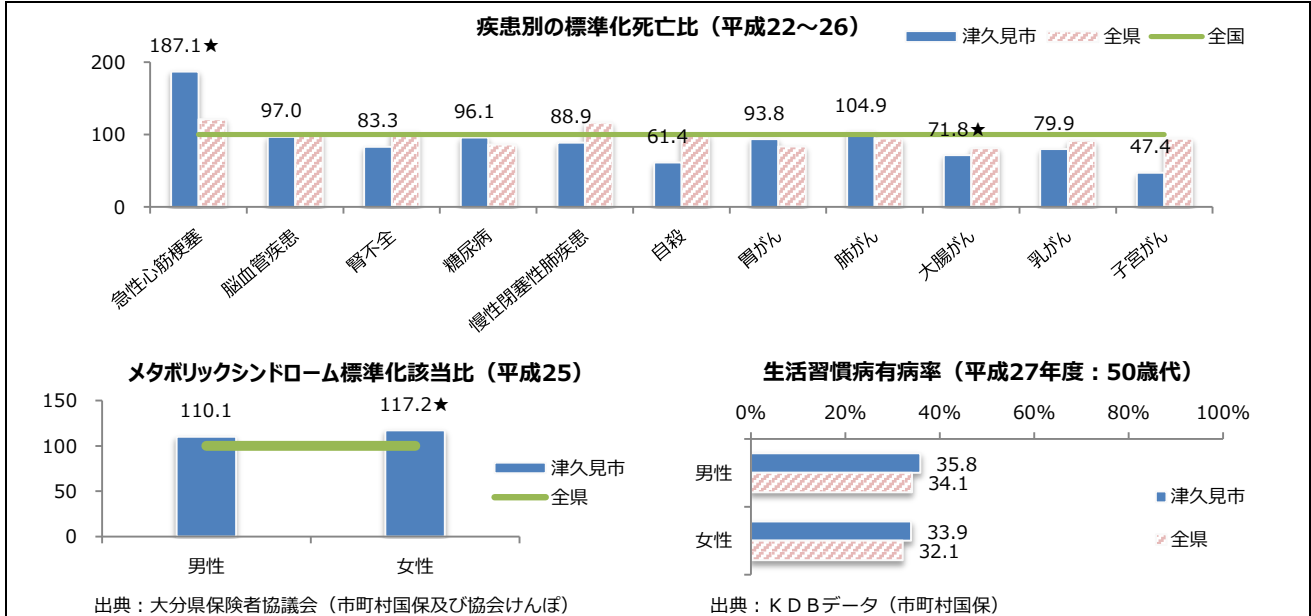
津久見市

総人口：17,969人 (男性：8,346人 女性：9,623人) 高齢化率：39.7%
 出生数：106人/年 出生率(人口千対)：5.9
 死亡数：265人/年 死亡率(人口千対)：14.8

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

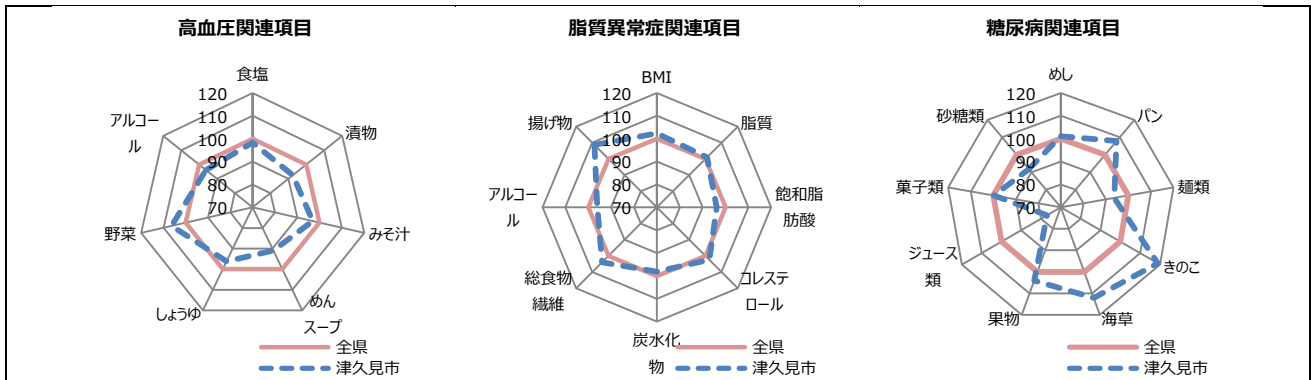
- ・津久見市の標準化死亡比は、急性心筋梗塞で全国より高く、大腸がんで低くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比は女性で県平均よりも高くなっている。

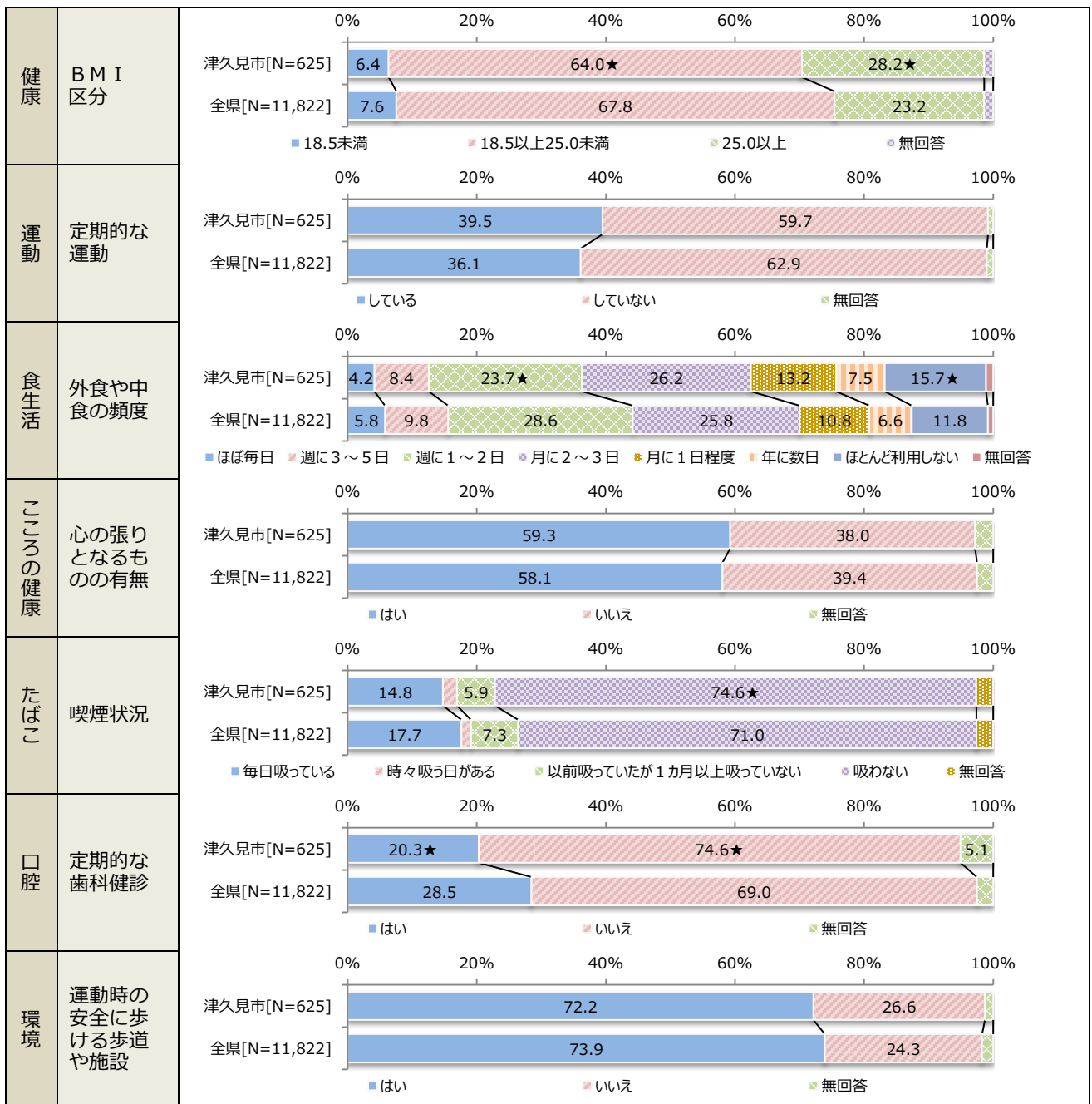


出典：大分県保険者協議会(市町村国保及び協会けんぽ) 出典：KDBデータ(市町村国保)
 標準化死亡比：全国を100(基準)として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。
 標準化該当比：全県を100(基準)として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。
 有意差(有意水準5%未満)のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。(標準化死亡比は対全国、その他は対全県)

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、脂質異常症関連項目について、揚げ物の摂取量が県平均より多くなっている。糖尿病関連項目では、パンなどの摂取量が県平均より多くなっている一方、きのこ、海藻も多く摂取されている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、肥満者は県平均より多くなっている。外食や中食を利用する人は県平均より少なくなっている。喫煙については、喫煙者は県平均より少なくなっている。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- ・急性心筋梗塞の死亡が全国よりも高くなっている。
- ・メタボリックシンドローム該当者は県平均と比べて女性で多い状況となっている。
- ・食生活に関しては、県平均と比べて、脂っこいものや、パン食などを好む人が多くなっている。
- ・生活習慣では、運動習慣のある人が県平均と比べて比較的多くなっているが、一方で、肥満者も多く、特に20~39歳の肥満者が多くなっている。
- ・喫煙者の割合は県平均より少なくなっている。

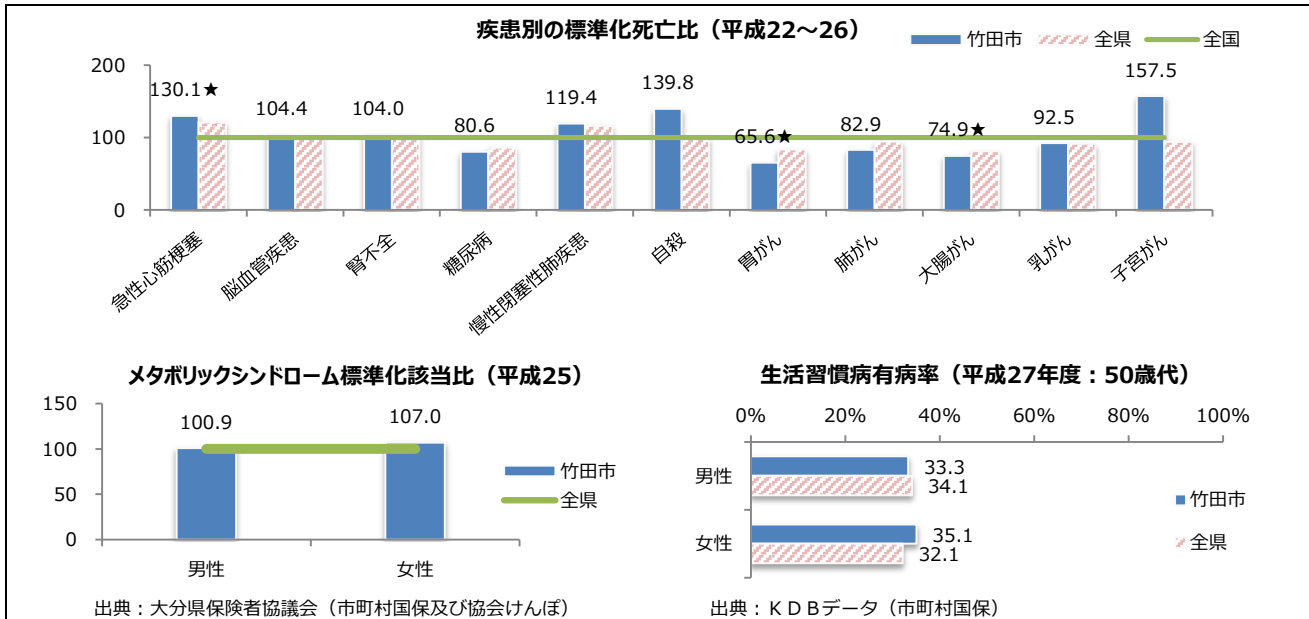
竹田市

総人口：22,332人 (男性：10,350人 女性：11,982人) 高齢化率：44.5%
 出生数：116人/年 出生率(人口千対)：5.2
 死亡数：448人/年 死亡率(人口千対)：20.2

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

- ・竹田市の標準化死亡比は、急性心筋梗塞で全国より高く、胃がん、大腸がんで低くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比、50歳代の生活習慣病有病率は、おおむね県平均と同程度となっている。



出典：大分県保険者協議会(市町村国保及び協会けんぽ)

出典：KDBデータ(市町村国保)

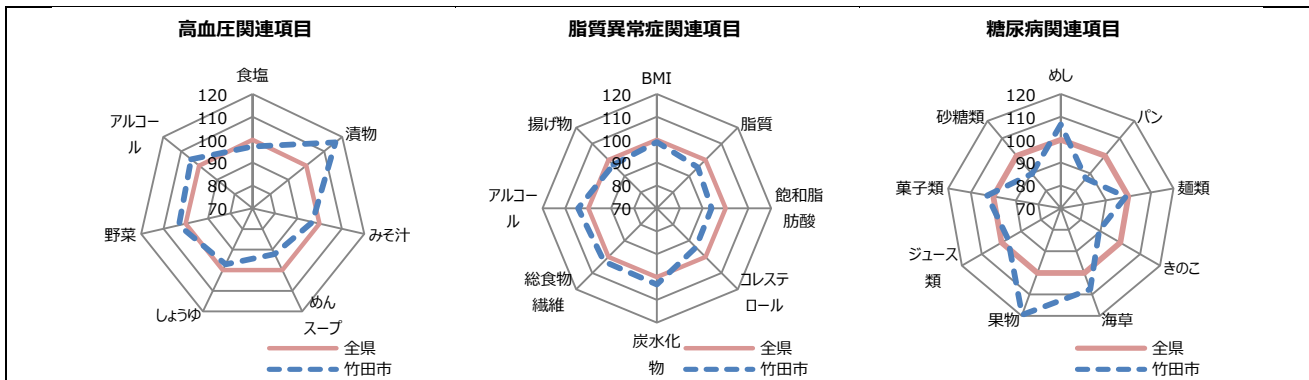
標準化死亡比：全国を100(基準)として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。

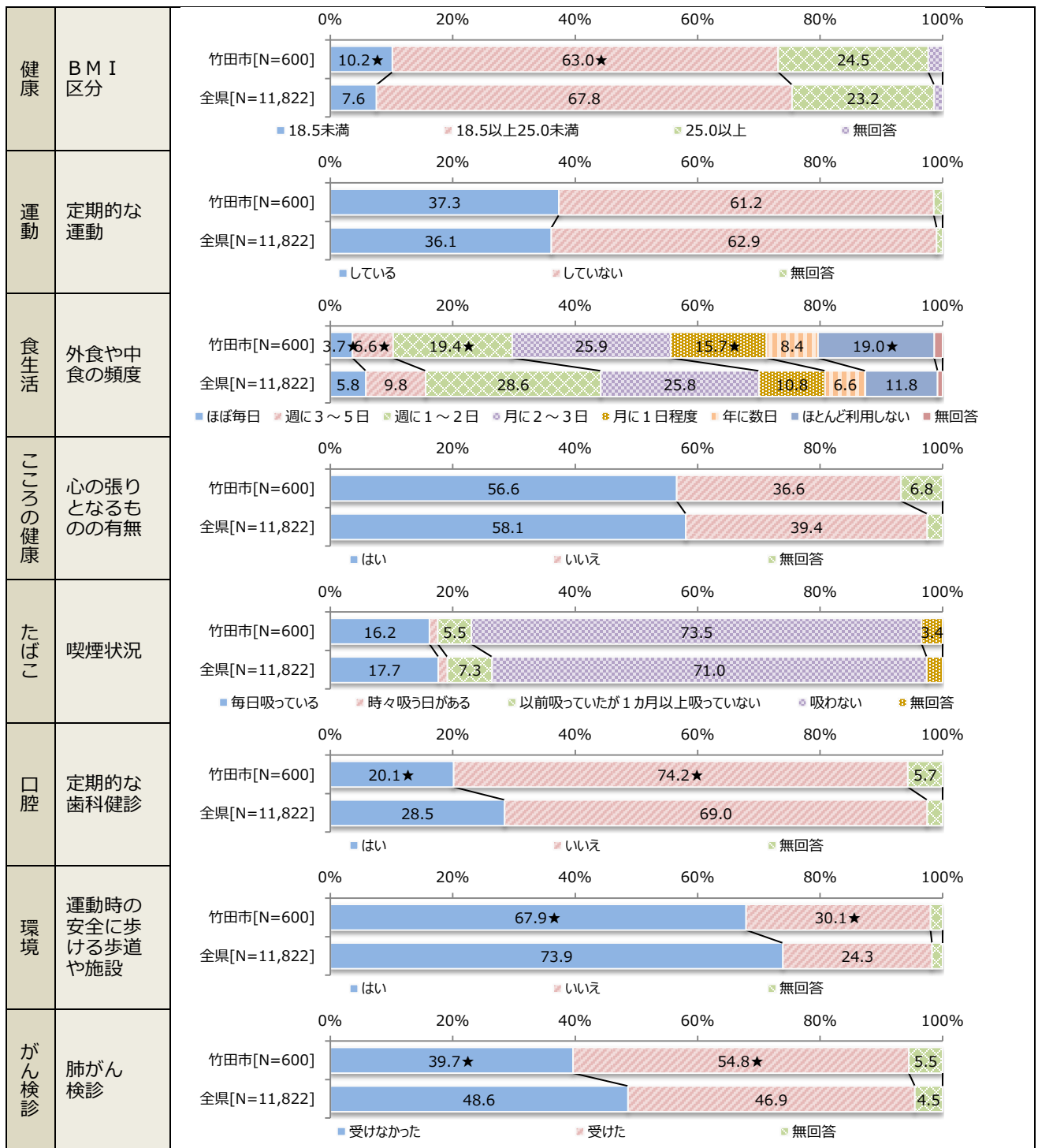
標準化該当比：全県を100(基準)として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。

有意差(有意水準5%未満)のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。(標準化死亡比は対全国、その他は対全県)

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、高血圧関連項目については、漬物の摂取量が県平均より多くなっている。糖尿病関連項目では、果物などの摂取量が県平均より多くなっている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、肥満者は県平均よりやや多く、一方でやせている人も多くなっている。外食や中食を利用する人は県平均より少なくなっている。安全な運動場所がないという人が多くなっている。定期的に歯科検診を受ける人が少ない。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- 急性心筋梗塞の死亡率が全国よりも高くなっている。食生活に関しては、県平均と比べて、漬物や果物などを好む人が多くなっている。肥満者は多い傾向が見られるが、一方でやせている人も多くなっている。外食等を利用する人が県平均と比べて少なくなっている。
- 運動習慣のある人は県平均とほぼ同じであるが、安全に歩ける歩道や施設がないと感じている人が多くなっている。
- 自分の歯が27本以下の人が多く、また、歯科検診を定期的に受ける人が少なくなっている。

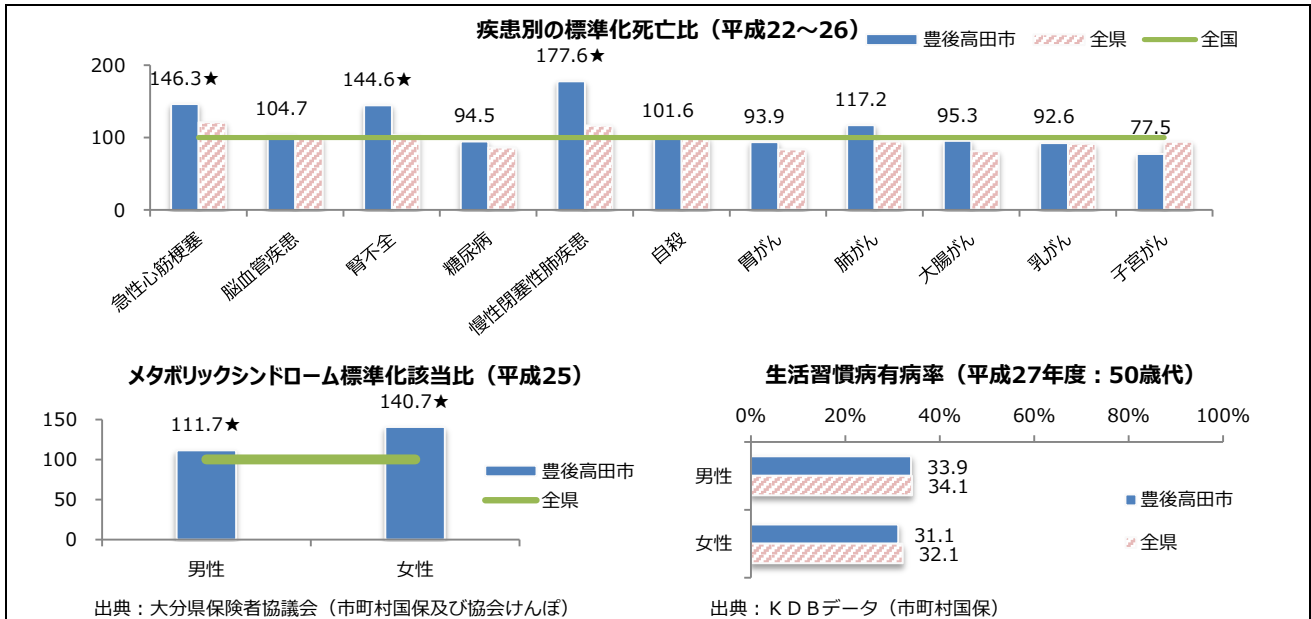
豊後高田市

総人口：22,853人 (男性：10,755人 女性：12,098人) 高齢化率：37.5%
 出生数：153人/年 出生率(人口千対)：6.8
 死亡数：369人/年 死亡率(人口千対)：16.4

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

- ・豊後高田市の標準化死亡比は、急性心筋梗塞、腎不全、慢性閉塞性肺疾患で全国より高くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比は県平均よりも高くなっている。



出典：大分県保険者協議会(市町村国保及び協会けんぽ)

出典：KDBデータ(市町村国保)

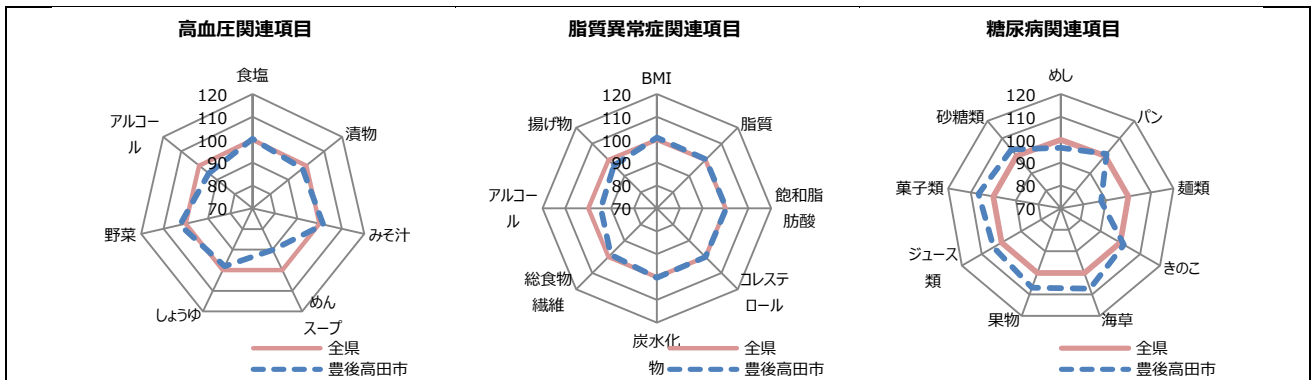
標準化死亡比：全国を100(基準)として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。

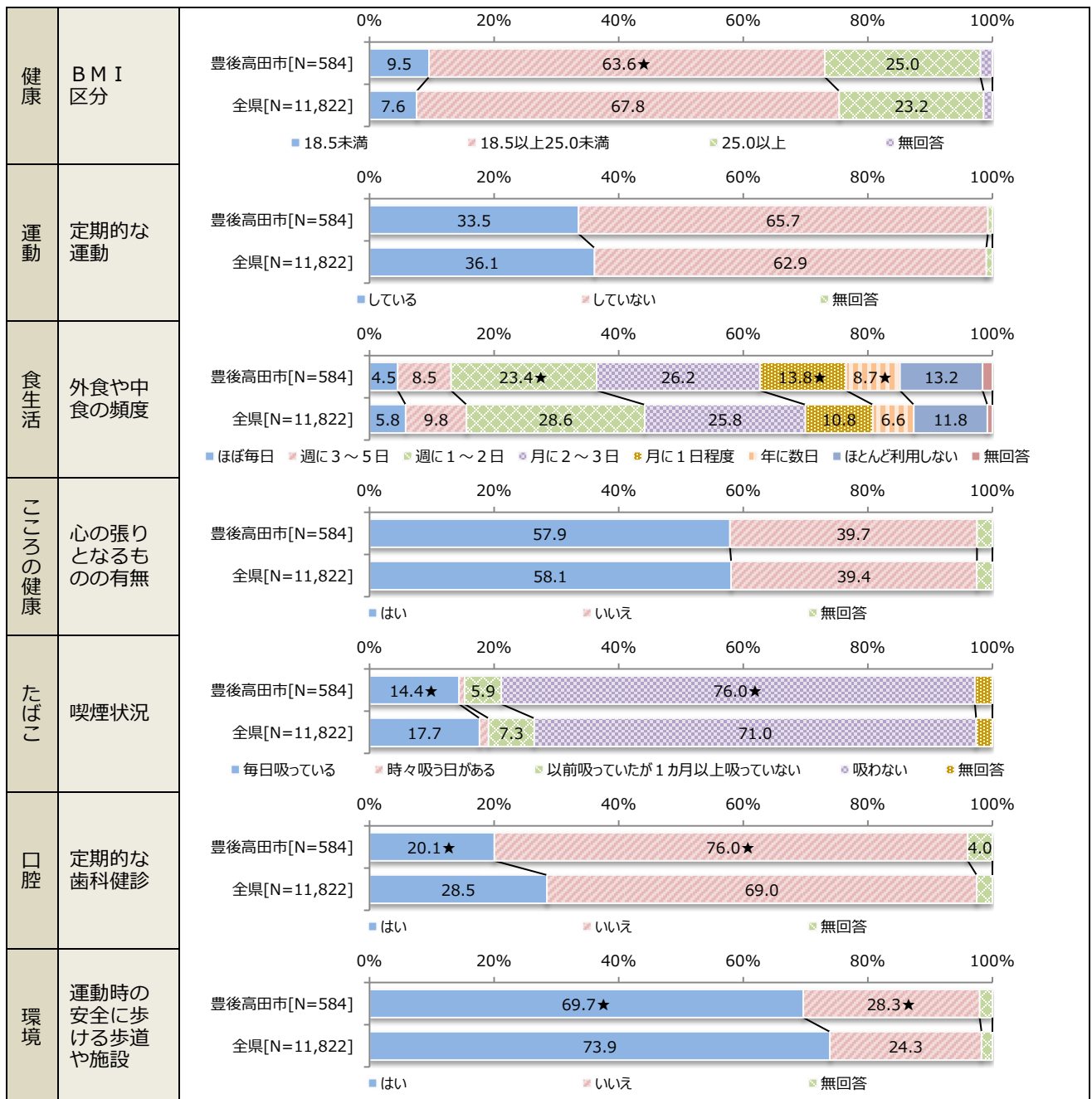
標準化該当比：全県を100(基準)として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。

有意差(有意水準5%未満)のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。(標準化死亡比は対全国、その他は対全県)

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、糖尿病関連項目で、果物、ジュース類、菓子類などの摂取量が県平均より多くなっている一方、海藻も多く摂取されている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、肥満者は県平均よりやや多くなっている。運動習慣のある人、外食や中食を利用する人は県平均より少なくなっている。喫煙については、県平均よりも喫煙者は少なくなっている。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- 急性心筋梗塞、腎不全、慢性閉塞性肺疾患の死亡率が全国よりも高くなっている。
- 県平均と比べて、メタボリックシンドローム該当者は多い状況となっている。
- 食生活に関しては、県平均と比べて、菓子、果物、ジュース類など甘いものを好む人が多く、特に男性ではアルコールの摂取量が多くなっている。
- 生活習慣では、運動習慣のある人が県平均と比べて少なく、肥満者の多い傾向が見られる。また、安全に歩ける歩道や施設がないと感じる人や運動仲間のいない人が県平均より多くなっている。
- 喫煙者の割合は県平均より少なくなっている。

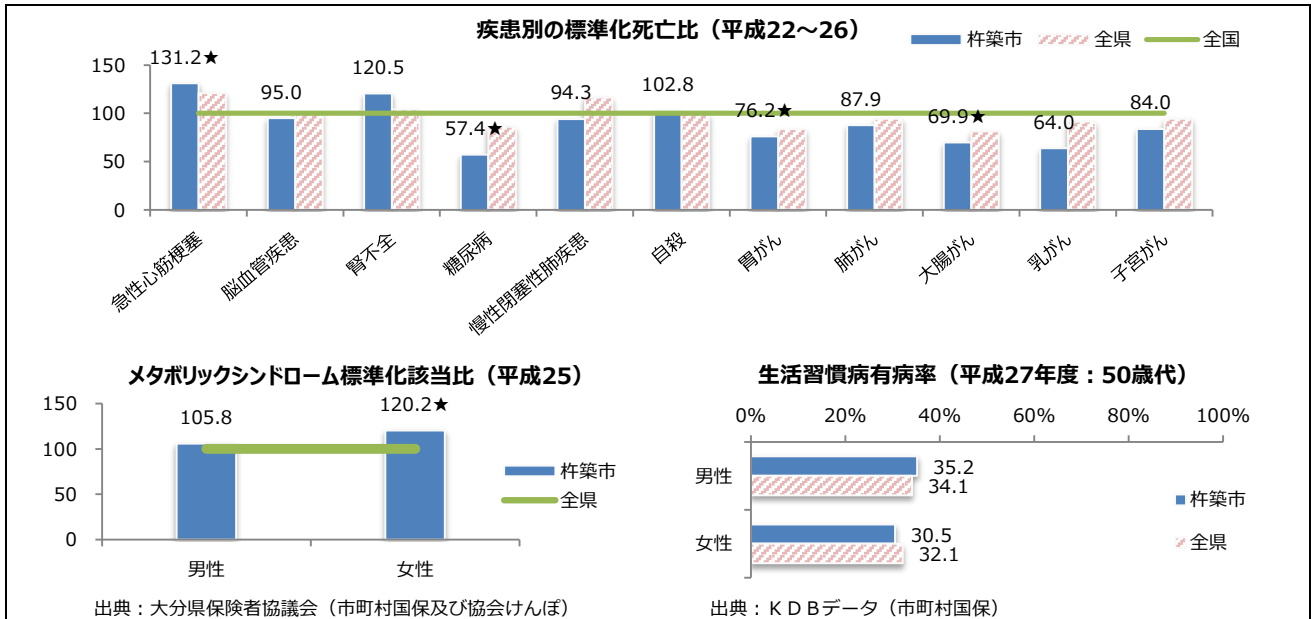
杵築市

総人口：30,185人 (男性：14,466人 女性：15,719人) 高齢化率：34.7%
 出生数：203人/年 出生率(人口千対)：6.7
 死亡数：500人/年 死亡率(人口千対)：16.6

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

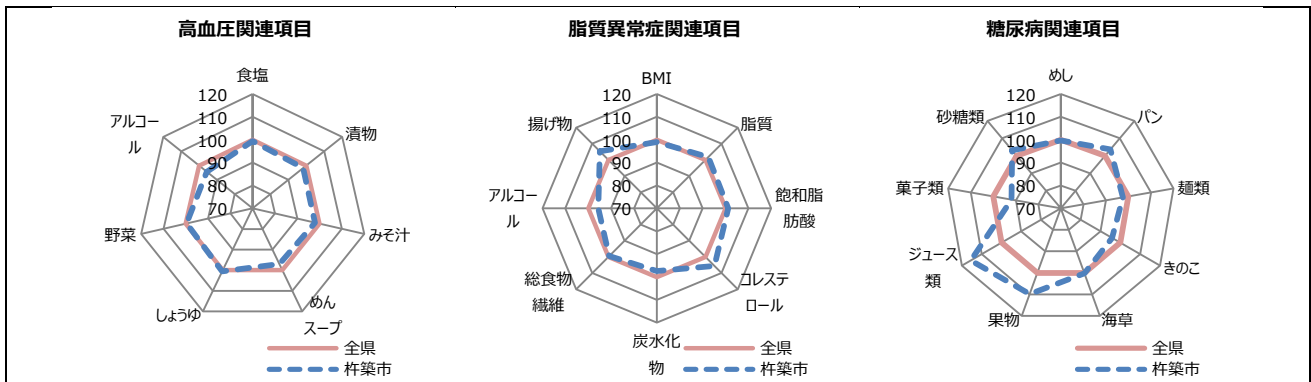
- ・杵築市の標準化死亡比は、急性心筋梗塞で全国より高く、糖尿病、胃がん、大腸がんで低くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比は、女性が県平均よりも高くなっている。

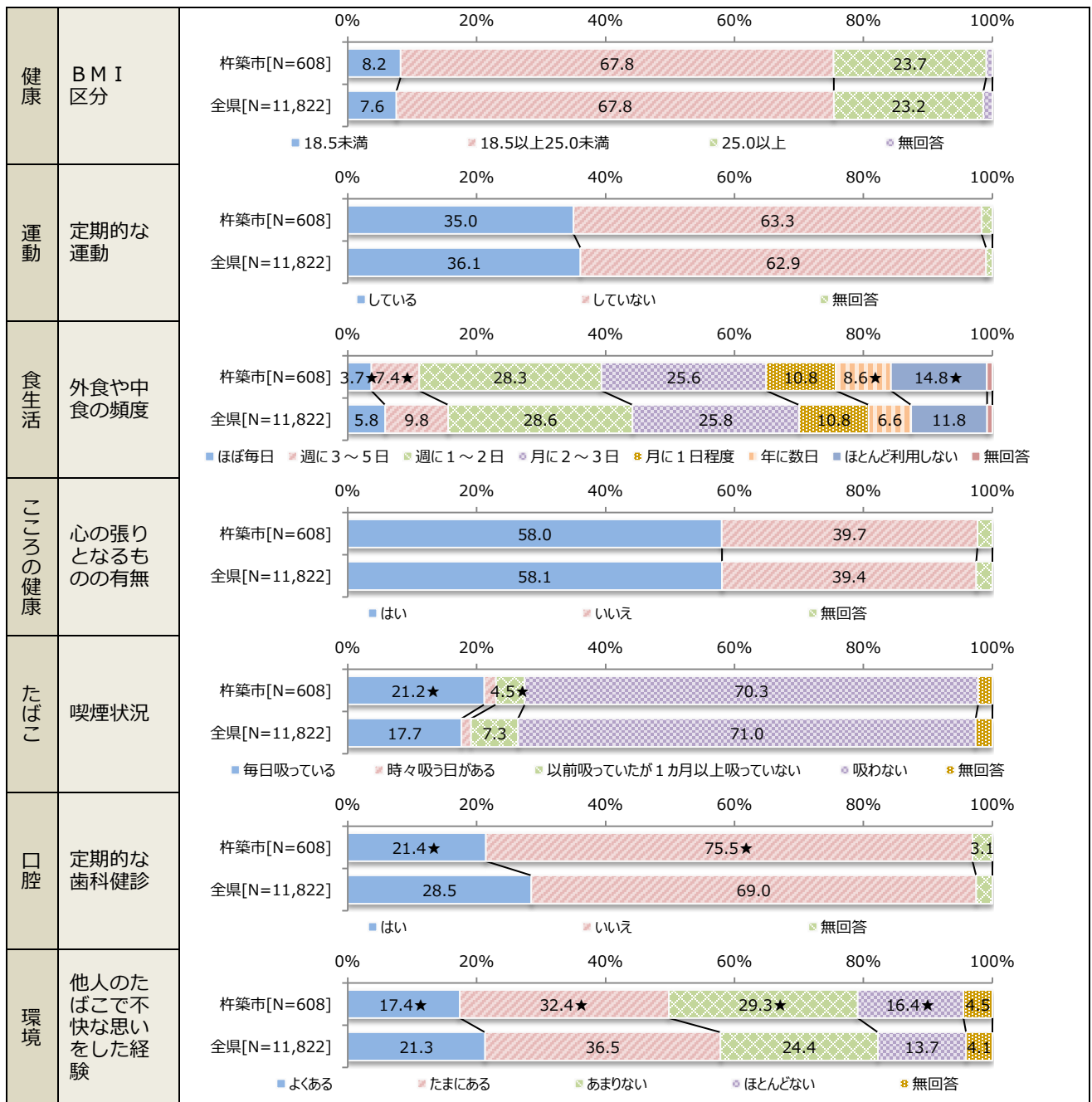


標準化死亡比：全国を100(基準)として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。
 標準化該当比：全県を100(基準)として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。
 有意差(有意水準5%未満)のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。(標準化死亡比は対全国、その他は対全県)

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、脂質異常症関連項目で、揚げ物等の摂取量が県平均より多くなっている。糖尿病関連項目では、ジュース類、果物などの摂取量が県平均より多くなっている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、外食や中食を利用する人は県平均より少なくなっている。喫煙については、県平均よりも喫煙者が多くなっている。一方、他人のたばこで不快な思いをした人は少なくなっている。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- 急性心筋梗塞の死亡率が全国よりも高くなっている。
- メタボリックシンドローム該当者は、女性で県平均よりも高くなっている。
- 食生活に関しては、県平均と比べて、脂っこいものや、ジュースなど甘いものを好む人が多くなっている。
- 生活習慣では、運動習慣のある人は県平均とほぼ同じだが、安全に歩ける歩道や施設がないと感じる人が多くなっている。
- 自分の歯が27本以下の人が県平均よりも多くなっている。また、歯科検診を定期的に行う人も少なくなっている。
- 喫煙者の割合は県平均よりも高くなっている。

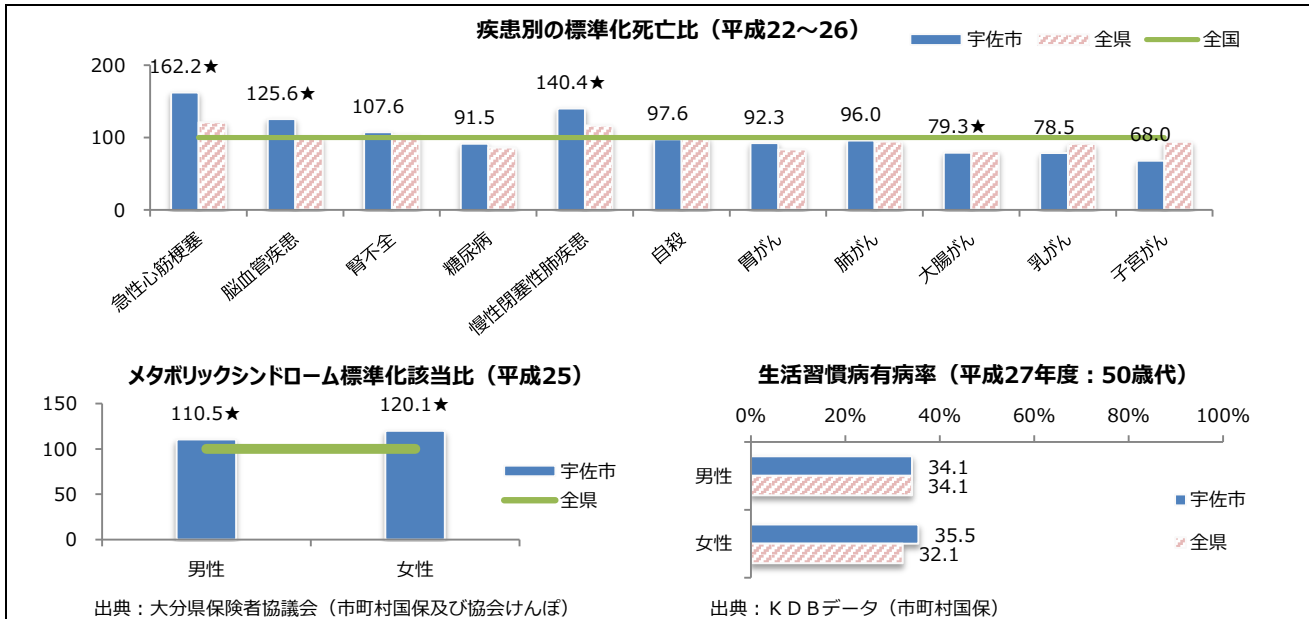
宇佐市

総人口：56,258人 (男性：26,281人 女性：29,977人) 高齢化率：34.0%
 出生数：395人/年 出生率(人口千対)：7.1
 死亡数：813人/年 死亡率(人口千対)：14.5

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

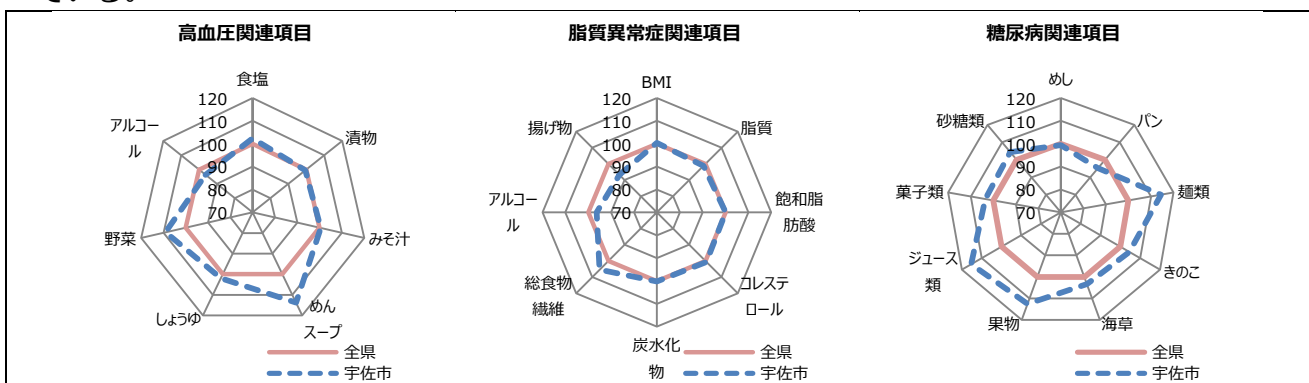
- ・宇佐市の標準化死亡比は、急性心筋梗塞、脳血管疾患、慢性閉塞性肺疾患で全国より高く、大腸がんで低くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比は、女性で県平均よりも高くなっている。

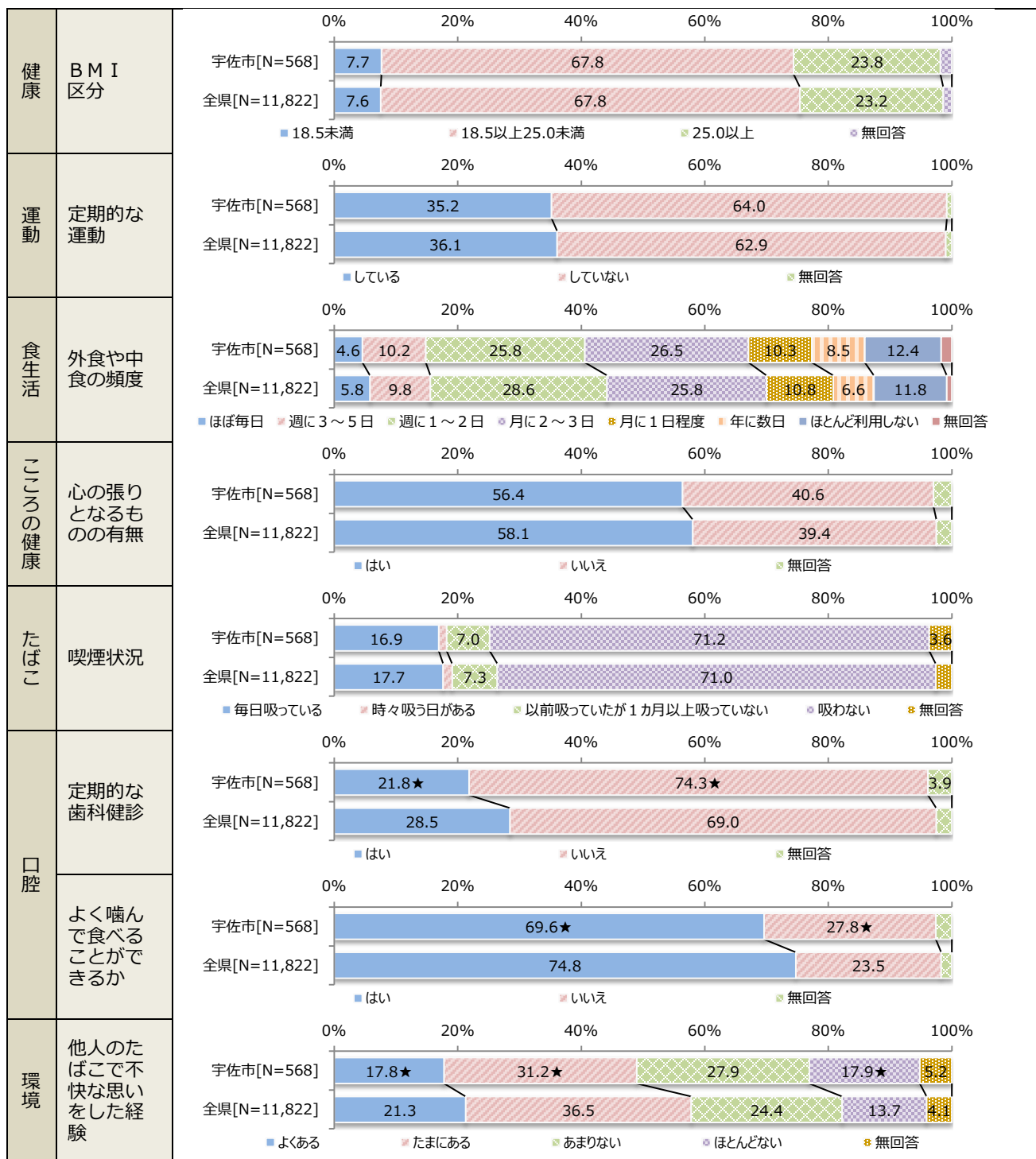


標準化死亡比：全国を100(基準)として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。
 標準化該当比：全県を100(基準)として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。
 有意差(有意水準5%未満)のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。(標準化死亡比は対全国、その他は対全県)

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、高血圧関連項目については、めんスープの摂取量が県平均より多くなっている一方、野菜も多く摂取されている。糖尿病関連項目では、麺類、果物、ジュース類等の摂取量が県平均より多くなっている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、各項目とも県平均とほぼ同じものが多くなっている。定期的な歯科健診を受けいている人は少なくなっている。他人のたばこで不快な思いをした人も少なくなっている。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- ・急性心筋梗塞、脳血管疾患、慢性閉塞性肺疾患の死亡率が全国よりも高くなっている。
- ・県平均と比べて、メタボリックシンドローム該当者は多い状況となっている。
- ・食生活に関しては、県平均と比べて、ジュース類や菓子類、砂糖類の摂取量が多くなっており、炭水化物では麺類を好む人が多くなっている。
- ・生活習慣では、運動習慣のある人、肥満者等は県平均とほぼ同じであるが、運動仲間のいない人が県平均よりも多くなっている。
- ・歯科検診を定期的に受ける人が少なく、よく噛んで食べることができない人が県平均よりも多い状況である。

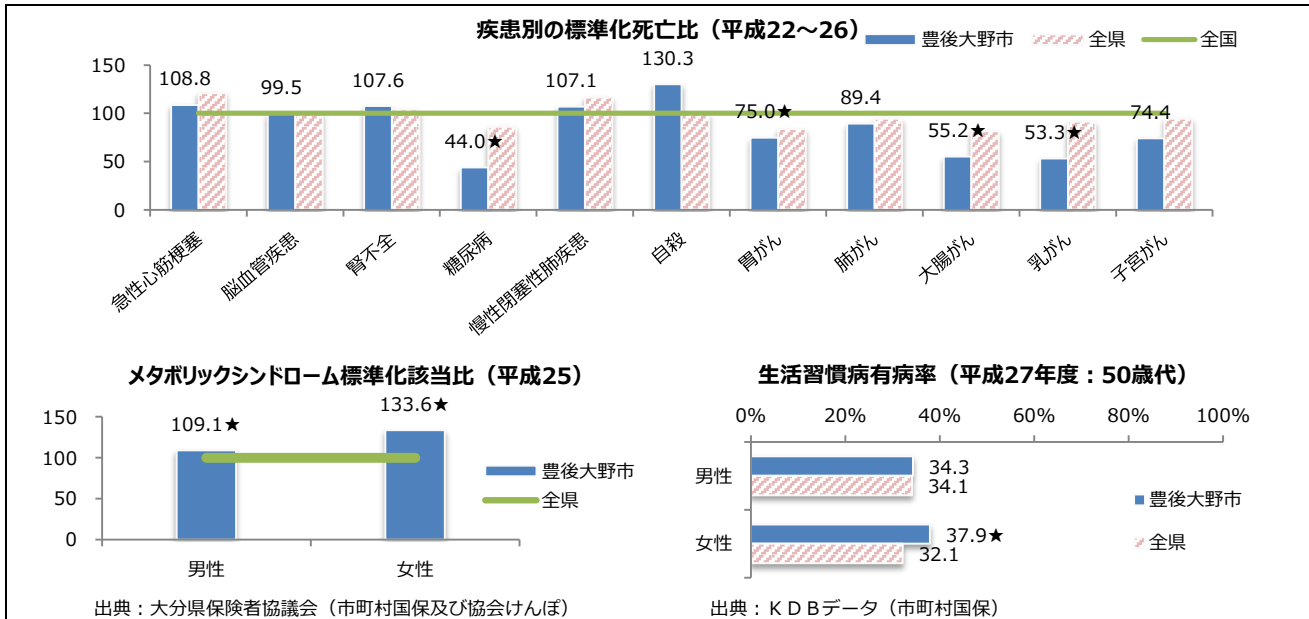
豊後大野市

総人口：36,584人 (男性：16,934人 女性：19,650人) 高齢化率：40.8%
 出生数：207人/年 出生率(人口千対)：5.7
 死亡数：675人/年 死亡率(人口千対)：18.5

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

- ・豊後大野市の標準化死亡比は、糖尿病、胃がん、大腸がん、乳がんで全国より低くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比は県平均よりも高くなっている。50歳代の生活習慣病有病率は女性で県平均よりも高くなっている。



出典：大分県保険者協議会(市町村国保及び協会けんぽ)

出典：KDBデータ(市町村国保)

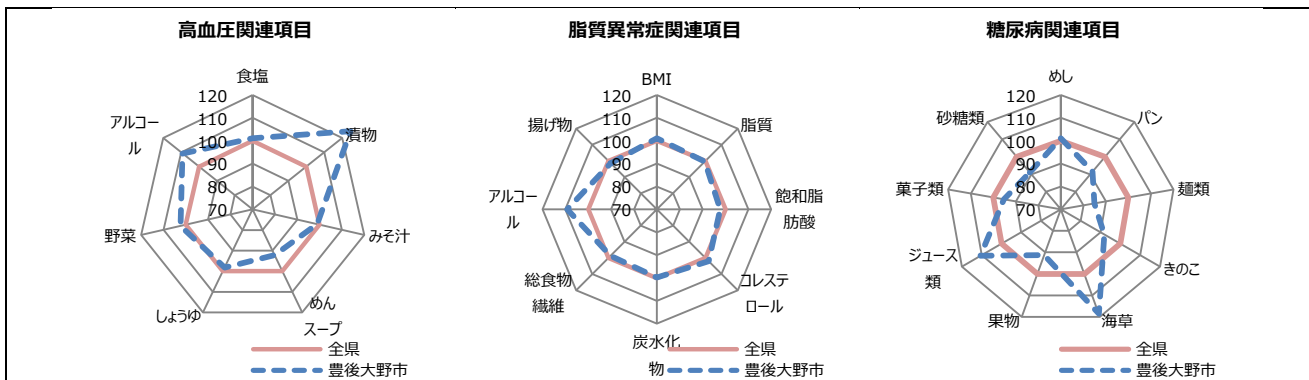
標準化死亡比：全国を100(基準)として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。

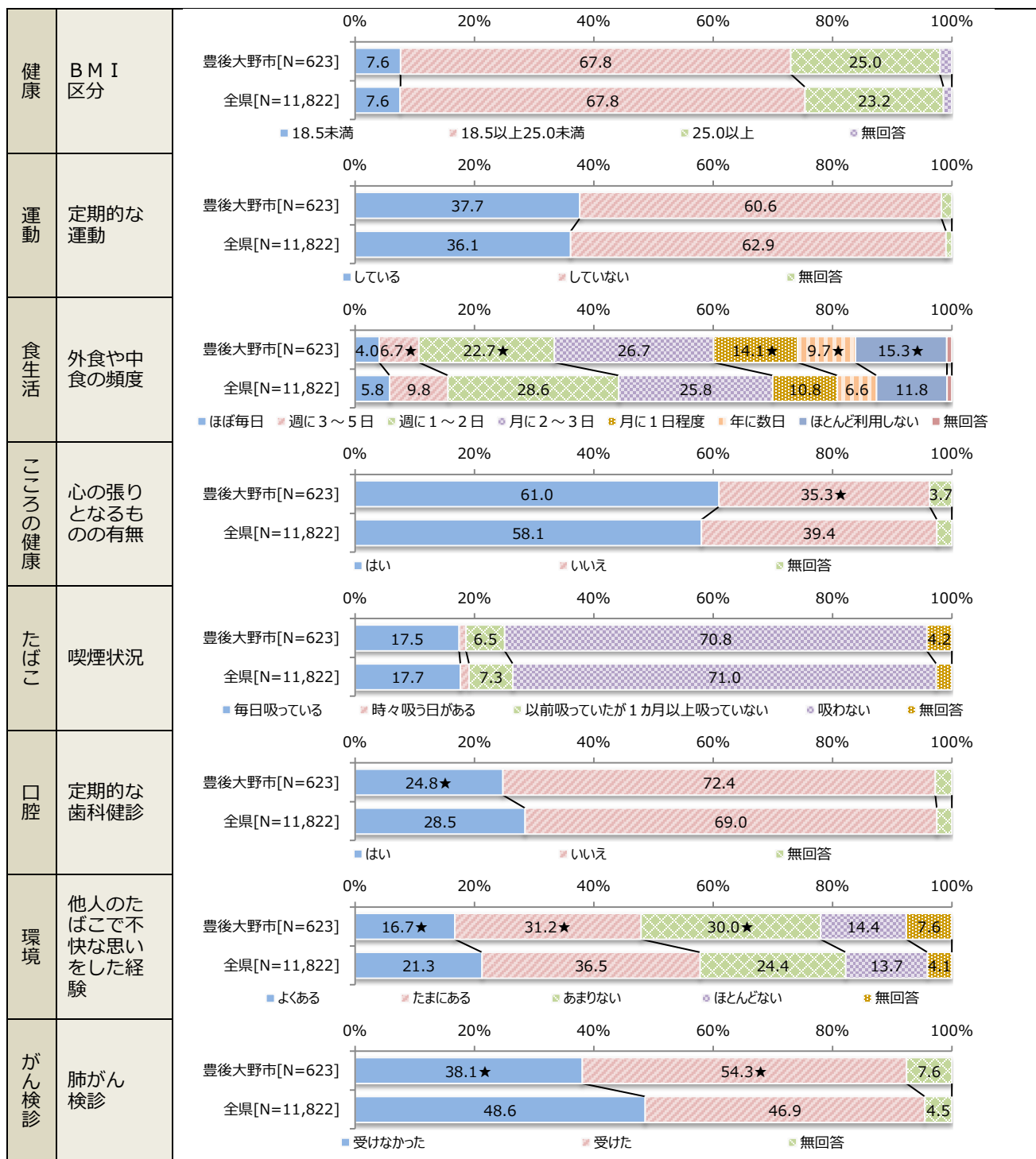
標準化該当比：全県を100(基準)として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。

有意差(有意水準5%未満)のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。(標準化死亡比は対全国、その他は対全県)

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、高血圧関連項目については、漬物等の摂取量が県平均より多くなっている。糖尿病関連項目では、ジュース類などの摂取量が県平均より多い一方、海藻が多く摂取されている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、県平均と比べて肥満者はやや多くなっている。外食や中食を利用する人は少なくなっている。喫煙状況は県平均とほぼ同じで、他人のたばこで不快な思いをした人は少なくなっている。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- ・糖尿病、胃がん、大腸がん、乳がんの死亡率が全国より低くなっている。
- ・県平均と比べて、メタボリックシンドローム該当者や50歳代の生活習慣病有病者は女性で多い状況となっている。
- ・食生活に関しては、県平均と比べて、海藻、漬物、ジュース類などの摂取が多くなっている。
- ・生活習慣では、運動習慣のある人は県平均よりやや多いが、肥満者も多い傾向が見られ、20～39歳で肥満者が多くなっている。

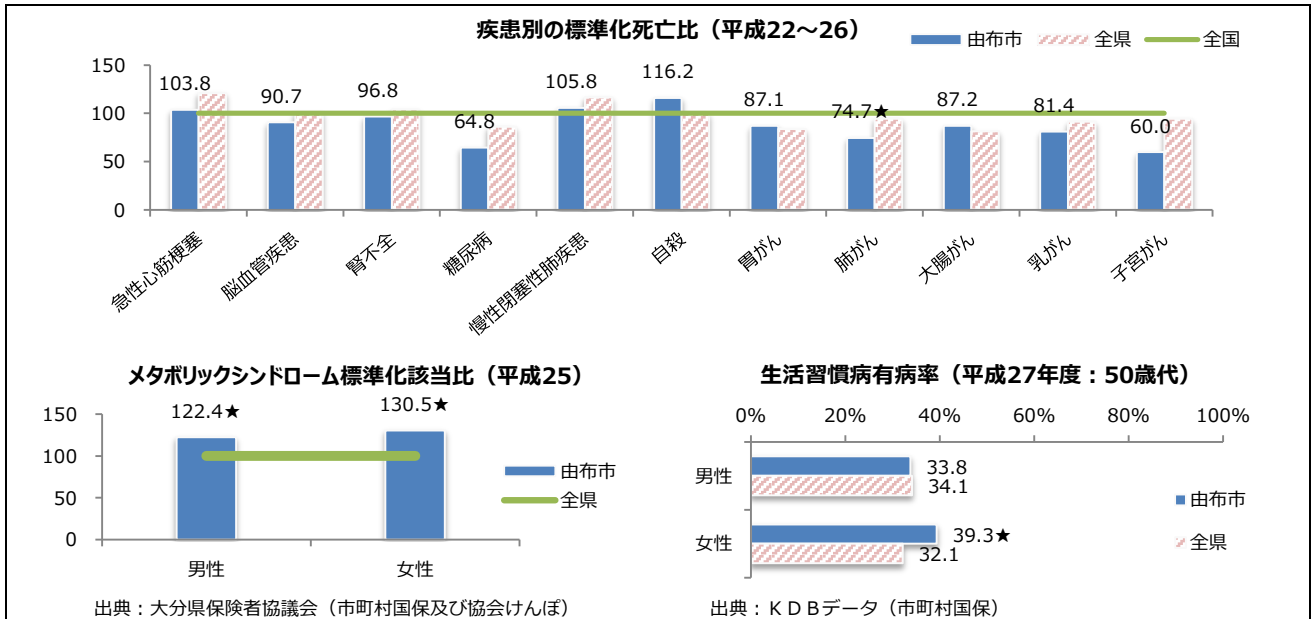
由布市

総人口：34,262人 (男性：16,210人 女性：18,052人) 高齢化率：32.3%
 出生数：281人/年 出生率(人口千対)：8.2
 死亡数：434人/年 死亡率(人口千対)：12.7

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

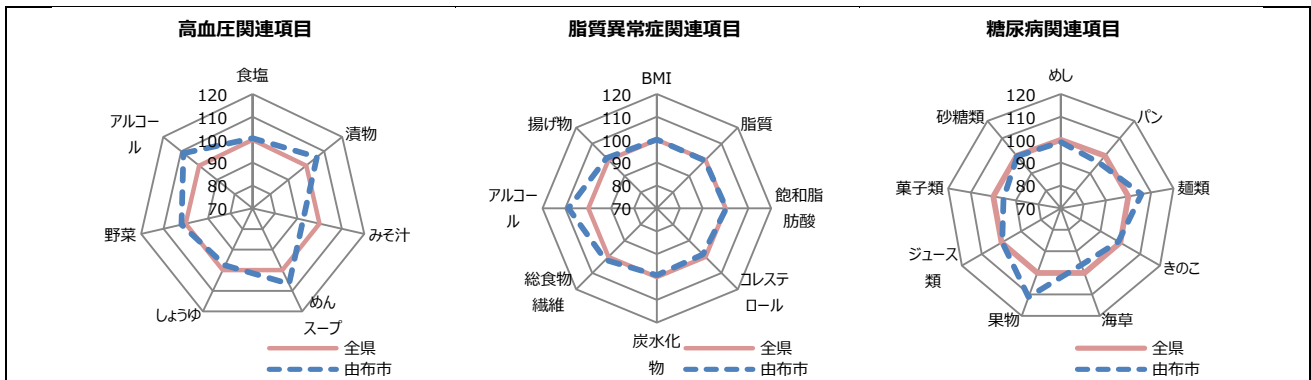
- ・由布市の標準化死亡比は、肺がんが全国より低くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比は県平均よりも高くなっている。50歳代の生活習慣病有病率は女性で県平均よりも高い割合となっている。

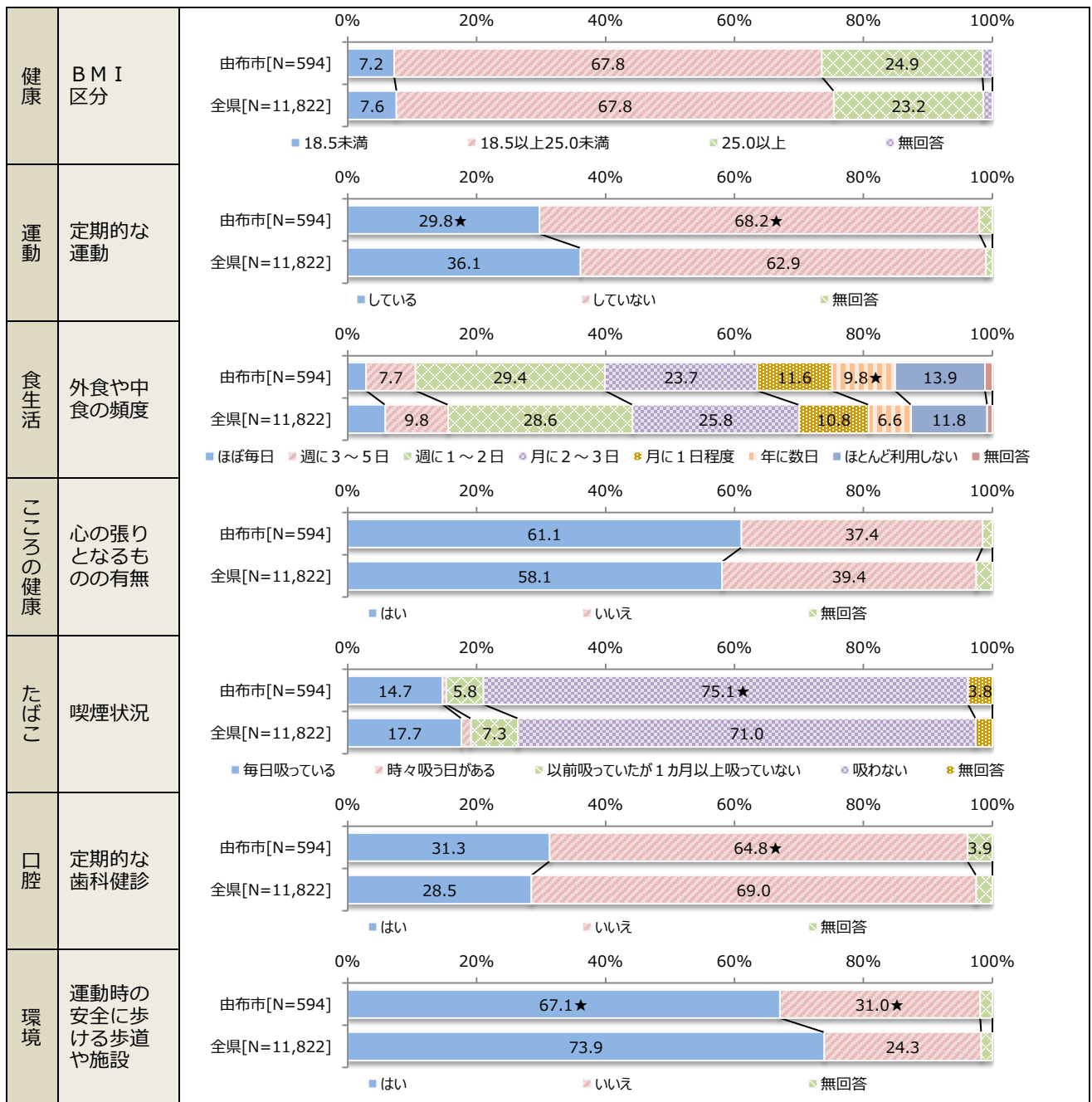


標準化死亡比：全国を100(基準)として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。
 標準化該当比：全県を100(基準)として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。
 有意差(有意水準5%未満)のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。(標準化死亡比は対全国、その他は対全県)

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、高血圧関連項目、脂質異常症関連項目でアルコールの摂取量が県平均より多くなっている。糖尿病関連項目では、果物などの摂取量が県平均より多くなっている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、県平均と比べて肥満者はやや多くなっている。外食や中食を利用する人は少なくなっている。喫煙状況は県平均より喫煙者が少なくなっている。安全な運動場所がないという人が多くなっている。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- ・県平均と比べて、メタボリックシンドローム該当者は多い状況となっている。50歳代の生活習慣病有病率は、女性で県平均よりも高い割合となっている。
- ・食生活に関しては、県平均と比べて、男性ではアルコールや果物の摂取が多く、女性では漬物やめんスープ、麺類やジュースの摂取が多くなっている。
- ・肥満者がやや多い傾向が見られ、生活習慣では、運動習慣のある人が少なく、運動時に安全に歩ける歩道や施設がないと感じる人が多くなっている。
- ・喫煙者の割合は県平均より少なくなっている。

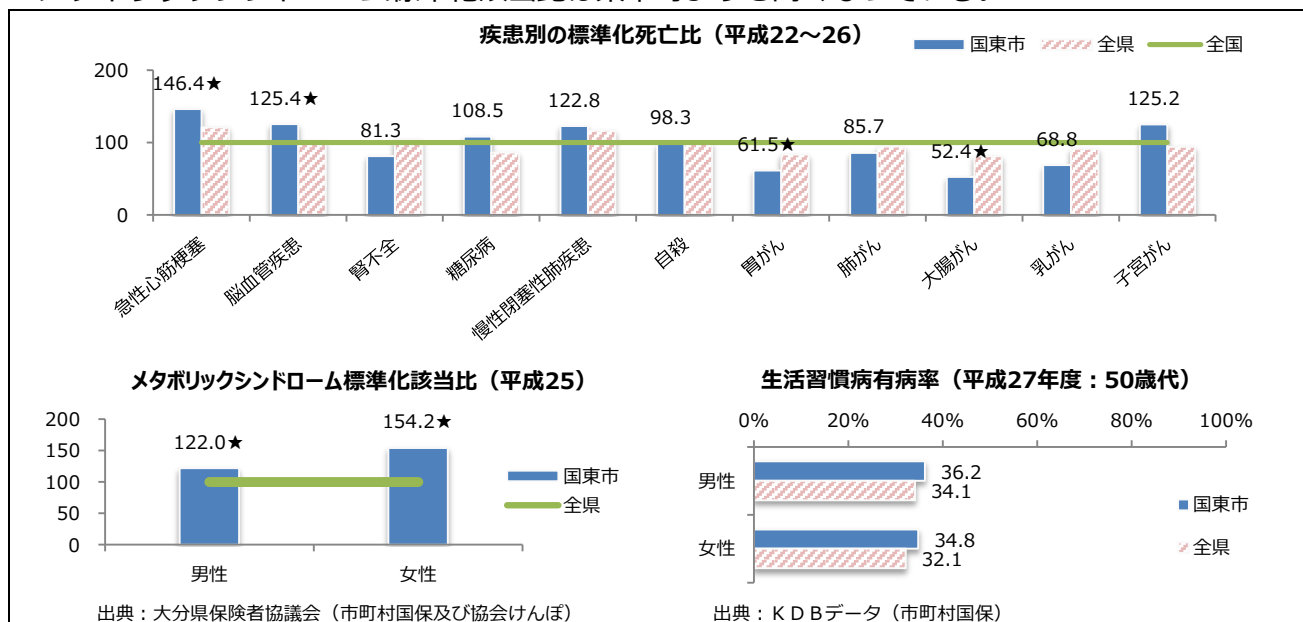
国東市

総人口：28,647人 (男性：13,588人 女性：15,059人) 高齢化率：40.5%
 出生数：170人/年 出生率(人口千対)：6.0
 死亡数：539人/年 死亡率(人口千対)：18.9

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

- ・国東市の標準化死亡比は、急性心筋梗塞、脳血管疾患で全国より高く、胃がん、大腸がんが低くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比は県平均よりも高くなっている。



出典：大分県保険者協議会(市町村国保及び協会けんぽ)

出典：KDBデータ(市町村国保)

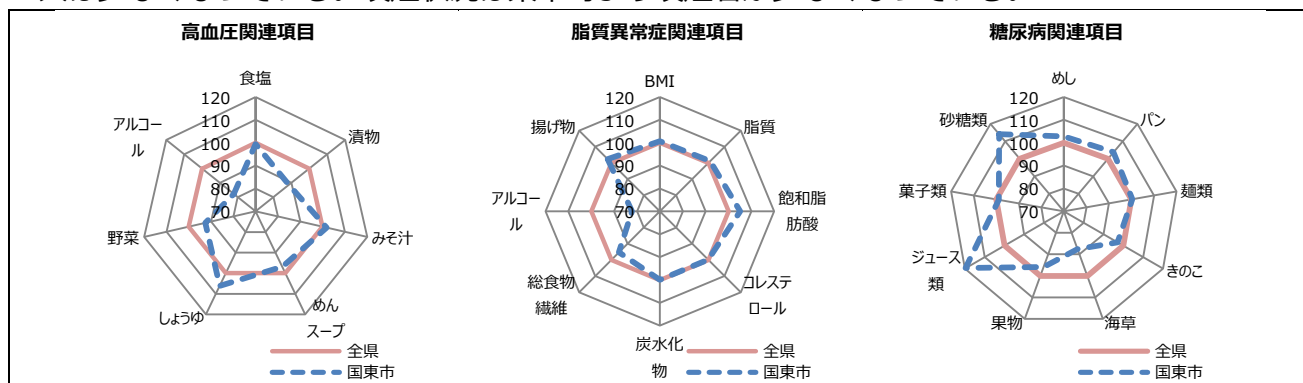
標準化死亡比：全国を100(基準)として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。

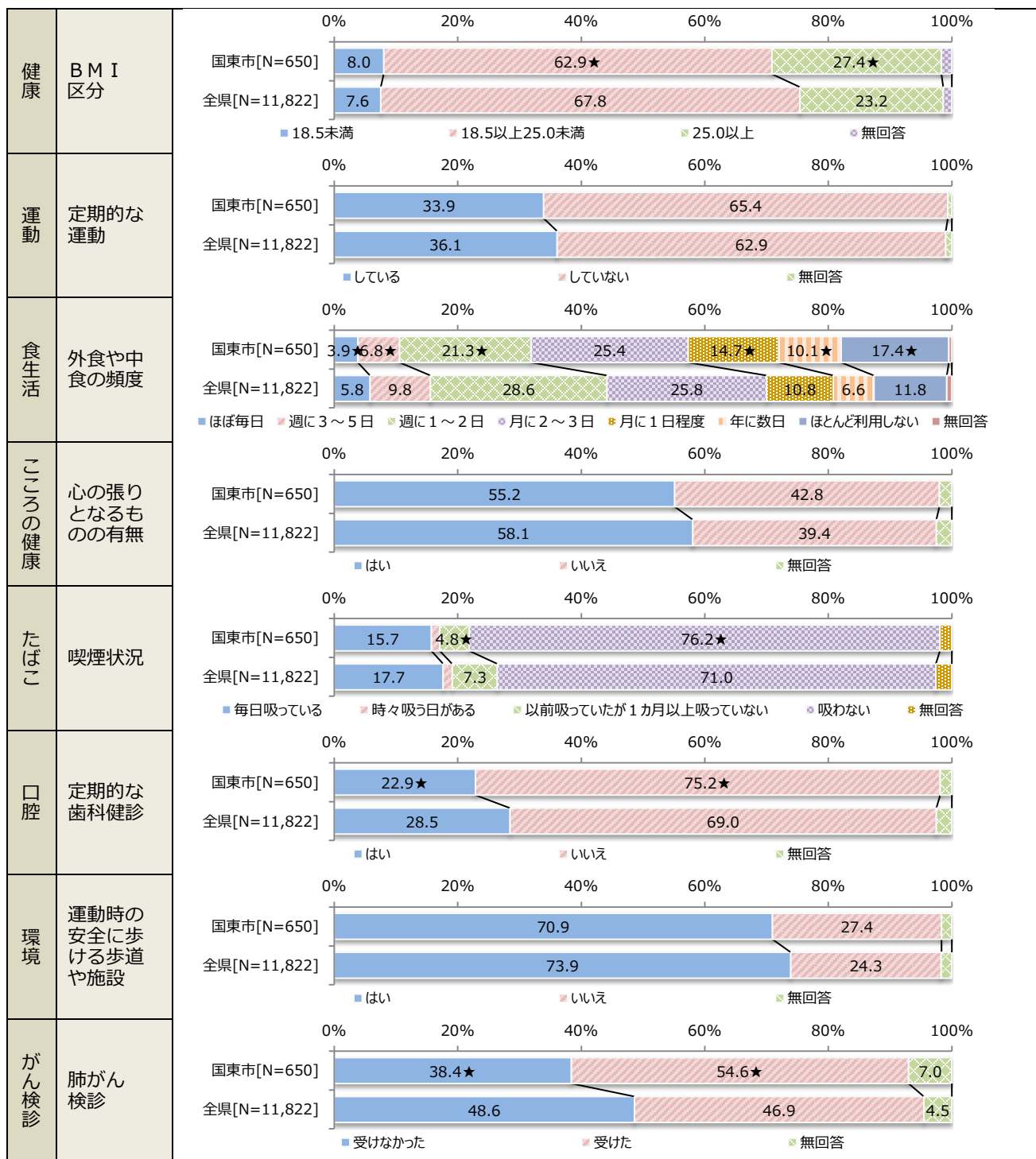
標準化該当比：全県を100(基準)として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。

有意差(有意水準5%未満)のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。(標準化死亡比は対全国、その他は対全県)

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、高血圧関連項目、脂質異常症関連項目で、アルコールの摂取量が県平均より少なくなっている。糖尿病関連項目では、ジュース類などの摂取量が県平均より多くなっている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、県平均と比べて肥満者は多くなっている。外食や中食を利用する人は少なくなっている。喫煙状況は県平均より喫煙者が少なくなっている。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- ・急性心筋梗塞、脳血管疾患の死亡率は全国と比べて高くなっている。
- ・県平均と比べて、メタボリックシンドローム該当者は多い状況となっている。
- ・食生活に関しては、県平均と比べて、ジュース類などを好む人が多く、砂糖類の摂取が多い。一方で、アルコール、野菜、海藻の摂取は少なくなっている。
- ・生活習慣では、運動習慣のある人が県平均よりもやや少なく、肥満者は多い傾向が見られる。年代別に見ると、40～64歳の壮年期で肥満者が多くなっている。
- ・喫煙者の割合は県平均より少なくなっている。

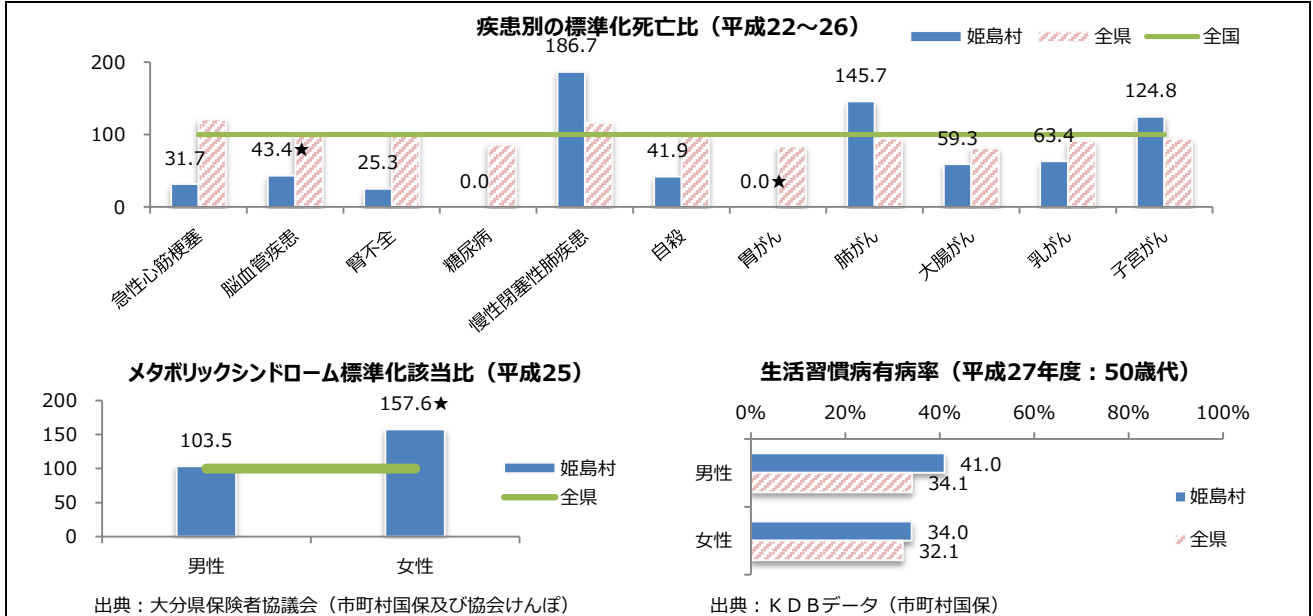
姫島村

総人口：1,991人 (男性：925人 女性：1,066人) 高齢化率：44.8%
 出生数：14人/年 出生率(人口千対)：7.0
 死亡数：23人/年 死亡率(人口千対)：11.6

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

- ・姫島村の標準化死亡比は、脳血管疾患、胃がんで全国より低くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比は、女性で県平均よりも高くなっている。



出典：大分県保険者協議会(市町村国保及び協会けんぽ)

出典：KDBデータ(市町村国保)

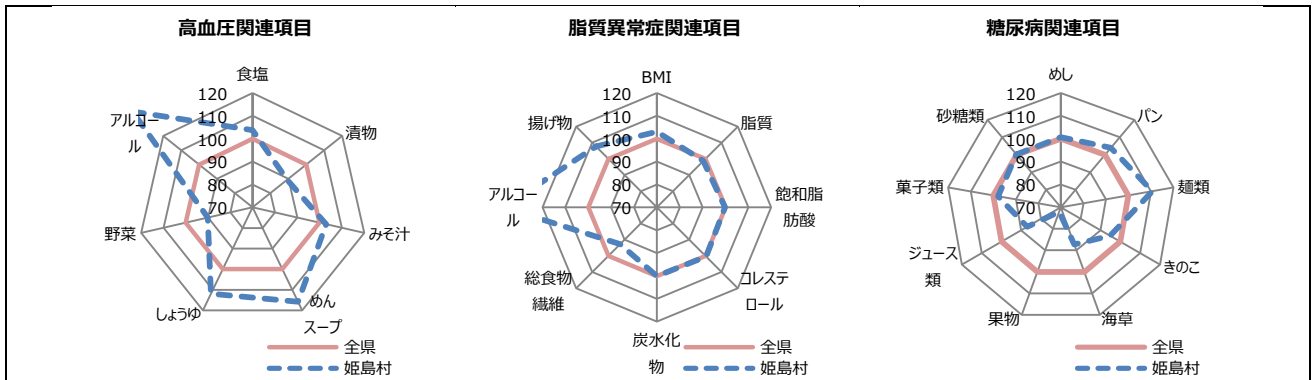
標準化死亡比：全国を100(基準)として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。

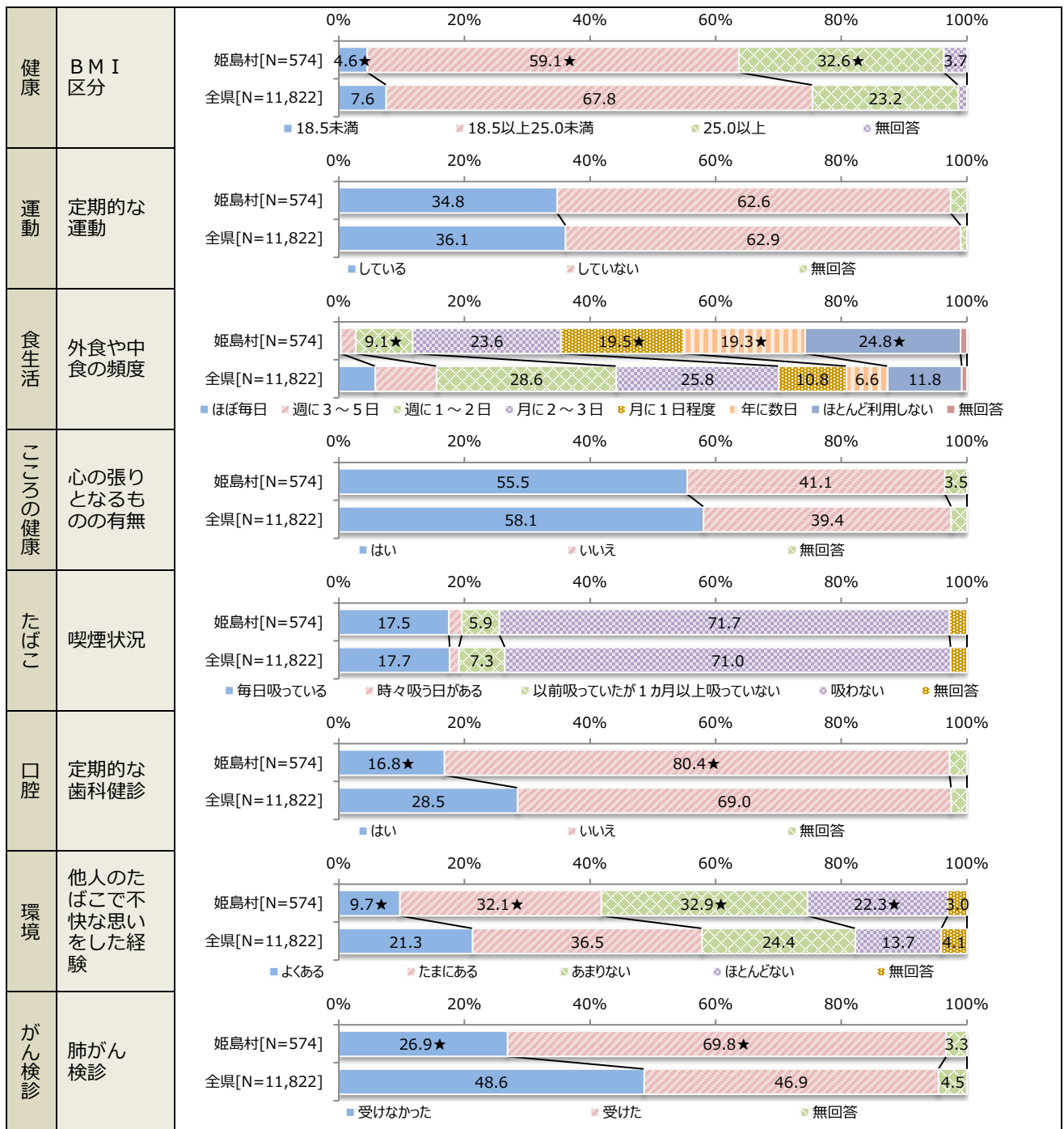
標準化該当比：全県を100(基準)として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。

有意差(有意水準5%未満)のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。(標準化死亡比は対全国、その他は対全県)

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、高血圧関連項目、脂質異常症関連項目でアルコールの摂取量が県平均より多くなっている。また、めんスープ、しょうゆの摂取量も県平均より多くなっている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、県平均と比べて肥満者は多くなっている。外食や中食を利用する人は少なくなっている。喫煙状況は県平均とほぼ同じだが、他人のたばこで不快な思いをした人は少なくなっている。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- ・ 県平均と比べ、メタボリックシンドローム該当者が女性で多くなっている。
- ・ 食生活に関しては、県平均と比べて、アルコール、しょうゆ、めんすूपによる塩分、麺類の摂取が多く、野菜、果物、海藻、きのこ類の摂取が少なくなっている。
- ・ 生活習慣では、運動時に安全に歩ける歩道があると感じる人が県平均に比べて多いが、運動習慣のある人は県平均よりやや少なく、肥満者は多くなっている。
- ・ 村全体の喫煙者の割合は県平均とそれほど違いはないが、年代別に見ると20～39歳の喫煙者が多くなっている。他人のたばこで不快な思いをしたことのある人は県平均と比べて少ない状況である。

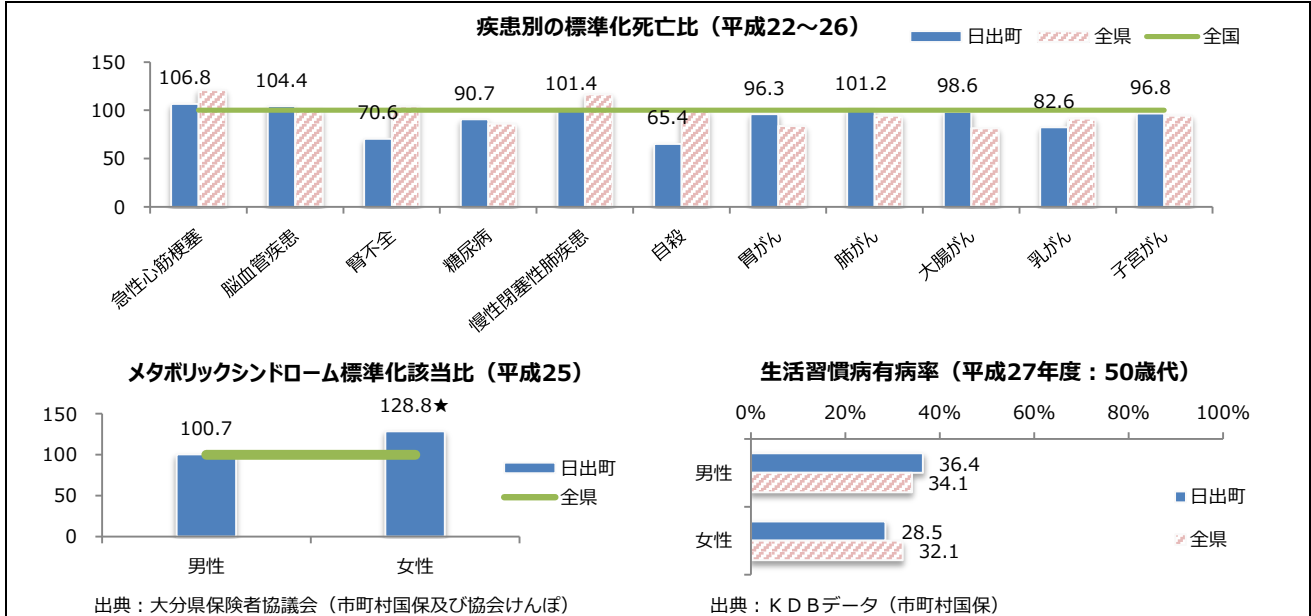
日出町

総人口：28,058人 (男性：13,324人 女性：14,734人) 高齢化率：28.7%
 出生数：224人/年 出生率(人口千対)：8.0
 死亡数：308人/年 死亡率(人口千対)：11.0

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

- ・日出町の標準化死亡比は、疾患別で全国とほぼ同じものが多くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比は、女性で県平均よりも高くなっている。



出典：大分県保険者協議会(市町村国保及び協会けんぽ)

出典：KDBデータ(市町村国保)

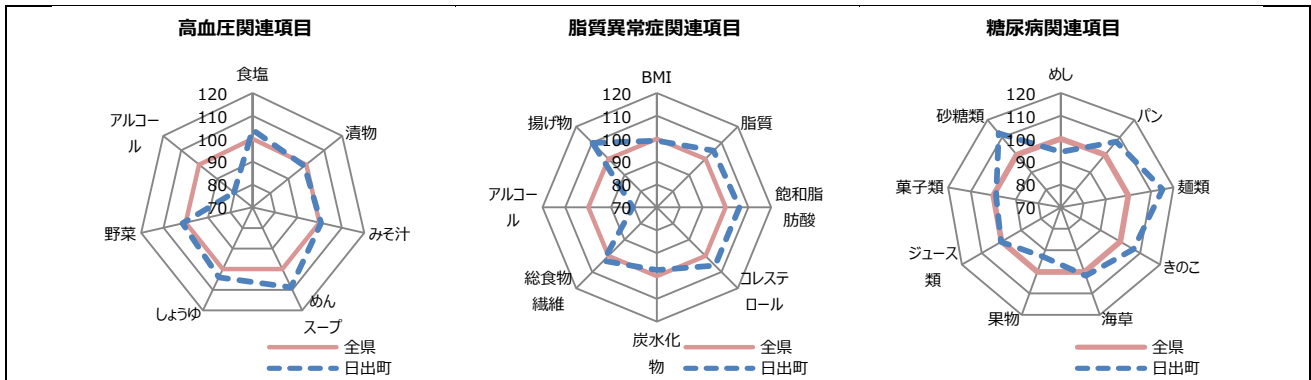
標準化死亡比：全国を100(基準)として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。

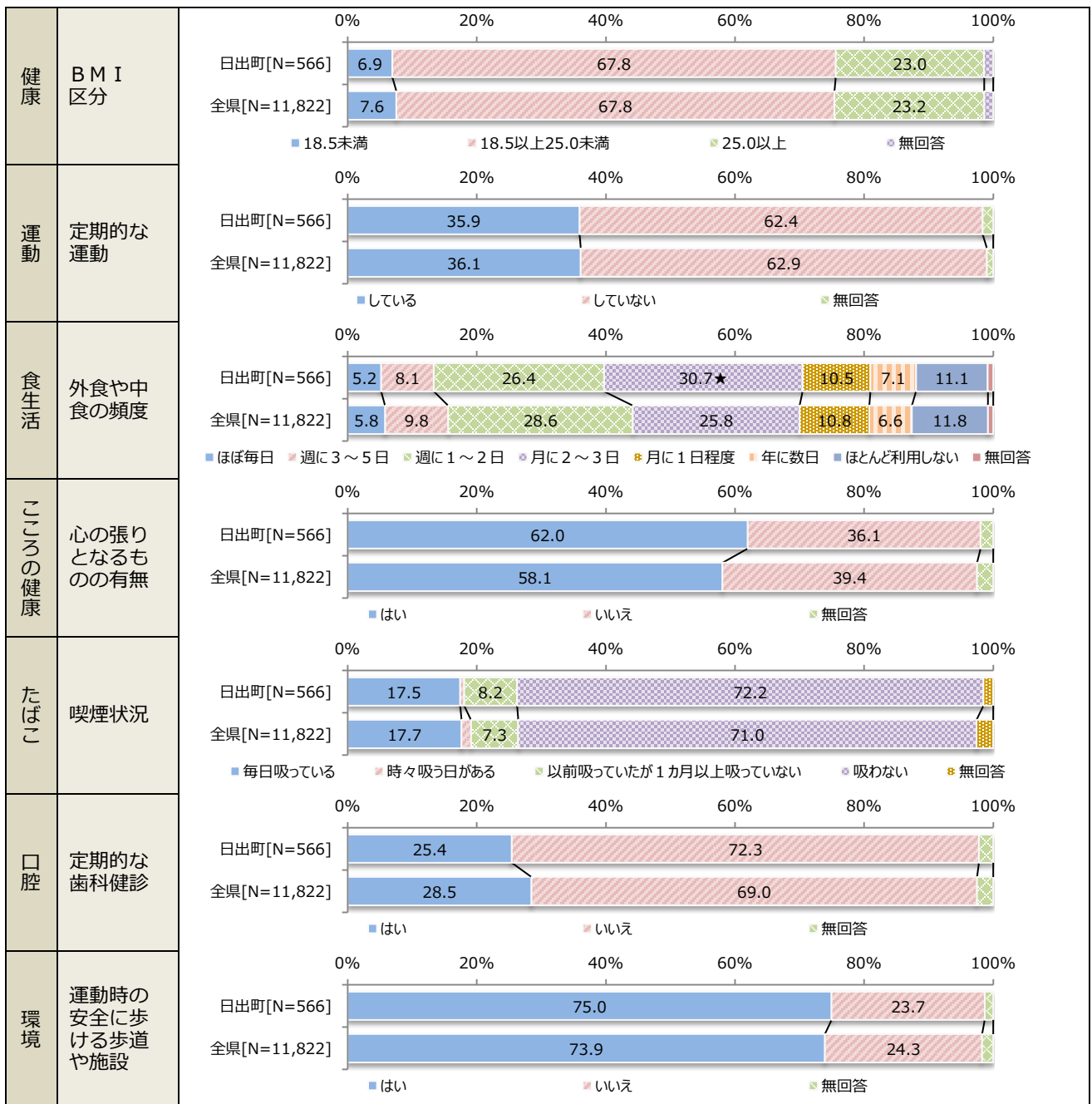
標準化該当比：全県を100(基準)として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。

有意差(有意水準5%未満)のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。(標準化死亡比は対全国、その他は対全県)

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、高血圧関連項目については、めんすूपの摂取量が県平均より多くなっている。脂質異常症の関連項目については、揚げ物等の摂取量が県平均より多くなっている。糖尿病関連項目では、麺類、砂糖類の摂取量が県平均より多くなっている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、県平均と比べて外食や中食を利用する人はやや少なくなっている。肥満者、運動習慣のある人、喫煙状況等は県平均とほぼ同じである。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- ・県平均と比べて、女性のメタボリックシンドローム該当者が多くなっている。
- ・食生活に関しては、県平均と比べて、脂っこいものや、麺類などを好む人が多く、アルコール摂取が少なくなっている。特に男性では、菓子や砂糖類、漬物、めんスープ、しょうゆなど塩分の摂取量が多く、女性ではパンの摂取が多くなっている。
- ・生活習慣では、運動習慣のある人、肥満者、喫煙者などは県平均とほぼ同じとなっている。

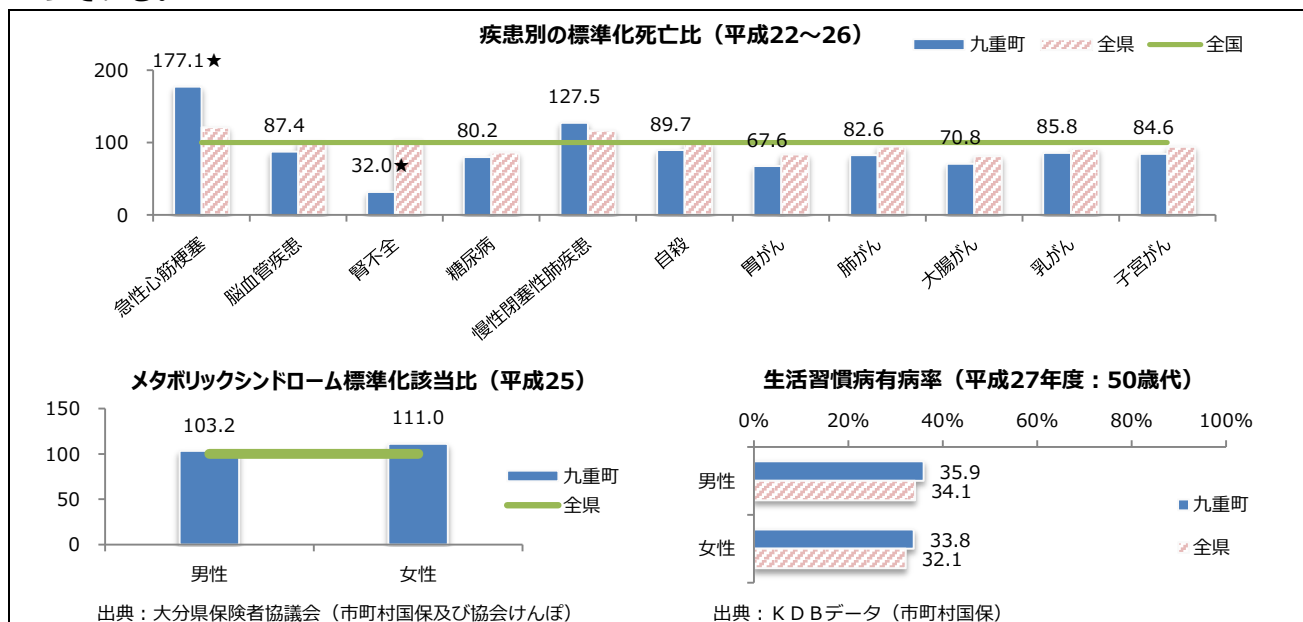
九重町

総人口：9,645人 (男性：4,557人 女性：5,088人) 高齢化率：40.7%
 出生数：77人/年 出生率(人口千対)：8.0
 死亡数：149人/年 死亡率(人口千対)：15.5

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

- ・九重町の標準化死亡比は、急性心筋梗塞で全国より高く、腎不全で低くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比、50歳代の生活習慣病有病率は県平均とほぼ同程度となっている。



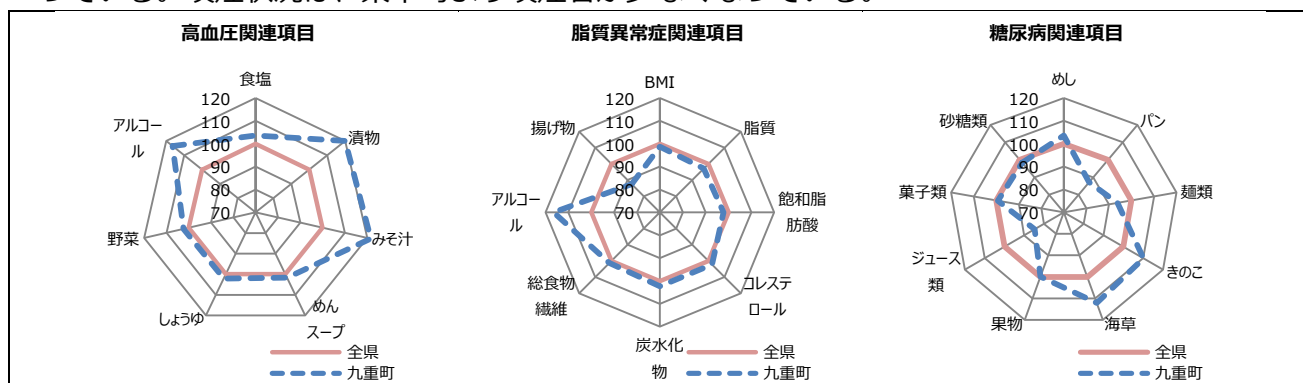
標準化死亡比：全国を100(基準)として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。

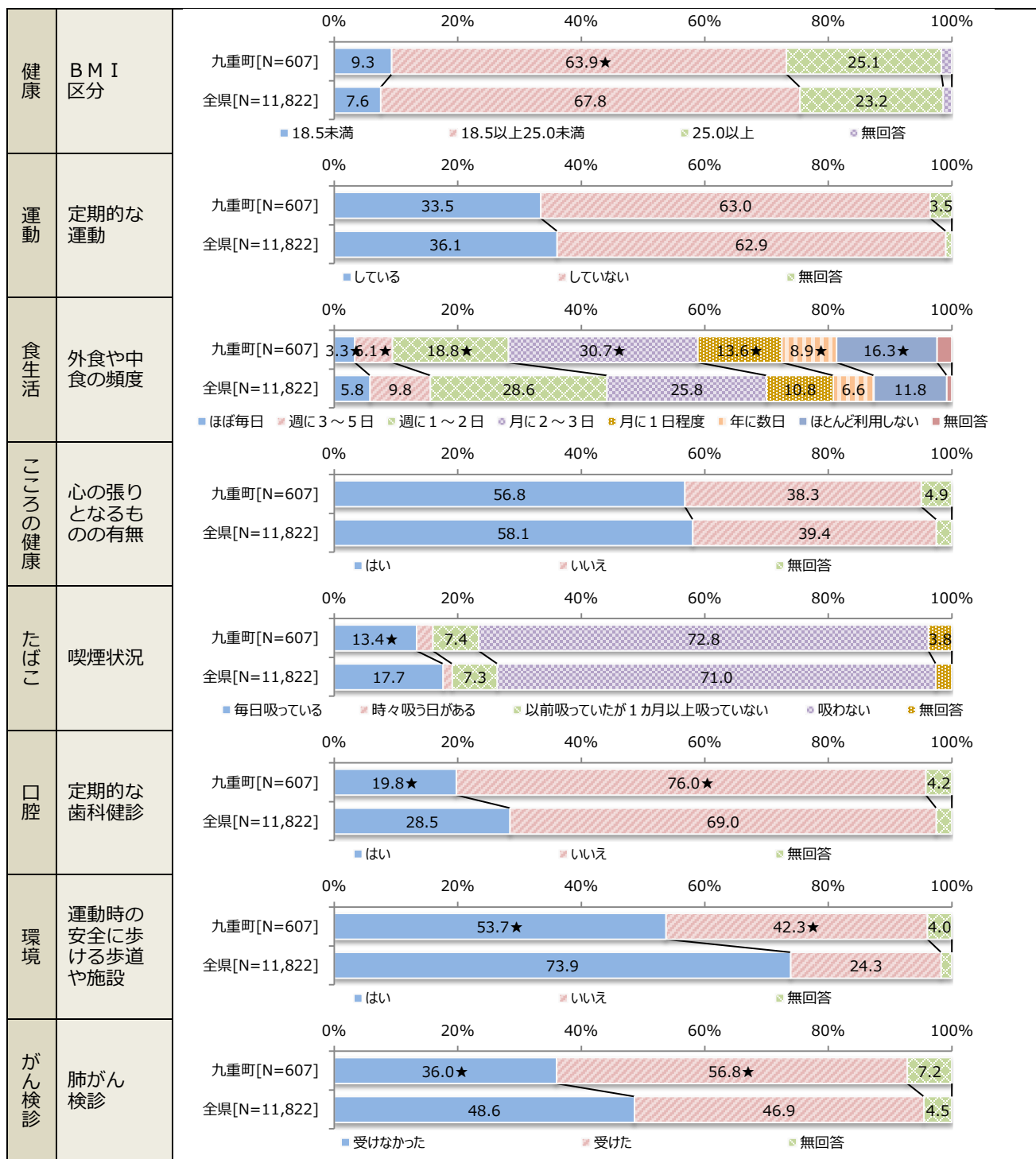
標準化該当比：全県を100(基準)として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。

有意差(有意水準5%未満)のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。(標準化死亡比は対全国、その他は対全県)

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、高血圧関連項目については、漬物、みそ汁等の摂取量が県平均より多くなっている。また、アルコールの摂取量も多くなっている。糖尿病関連項目では、パンなどの摂取量が県平均より少なく、きのこ、海草が多く摂取されている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、県平均と比べて肥満者はやや多く、運動習慣のある人はやや少なくなっている。運動場所がないという人が多くなっている。外食や中食を利用する人は少なくなっている。喫煙状況は、県平均より喫煙者が少なくなっている。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- 急性心筋梗塞の死亡率が全国よりも高くなっている。
- 食生活に関しては、県平均と比べて、海藻やきのこ、アルコールのほか、漬物、みそ汁等の塩分の摂取が多くなっている。生活習慣では、40～64歳で運動習慣のある人が県平均より少なく、肥満者は多い傾向が見られる。運動時に安全に歩ける歩道や施設がないと感じる人が、県平均と比べて多くなっている。
- 喫煙者の割合は県平均よりも少なくなっている。
- 歯科検診を定期的に受けている人が県平均よりも少なくなっている。

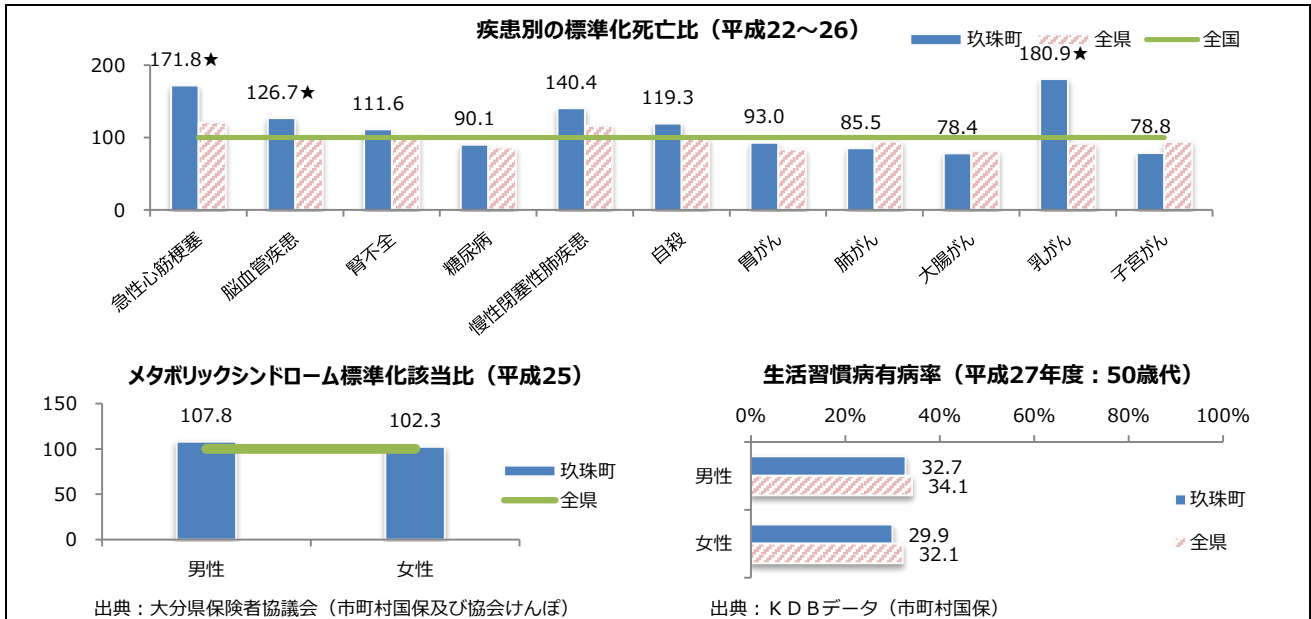
玖珠町

総人口：15,823人 (男性：7,593人 女性：8,230人) 高齢化率：35.1%
 出生数：106人/年 出生率(人口千対)：6.8
 死亡数：233人/年 死亡率(人口千対)：14.8

※平成27年国勢調査及び平成27年人口動態統計

(1) 健康関連データより

- ・玖珠町の標準化死亡比は、急性心筋梗塞、脳血管疾患、乳がんで全国より高くなっている。
- ・メタボリックシンドローム標準化該当比、50歳代の生活習慣病有病率は、いずれも県平均とほぼ同程度となっている。



出典：大分県保険者協議会(市町村国保及び協会けんぽ)

出典：KDBデータ(市町村国保)

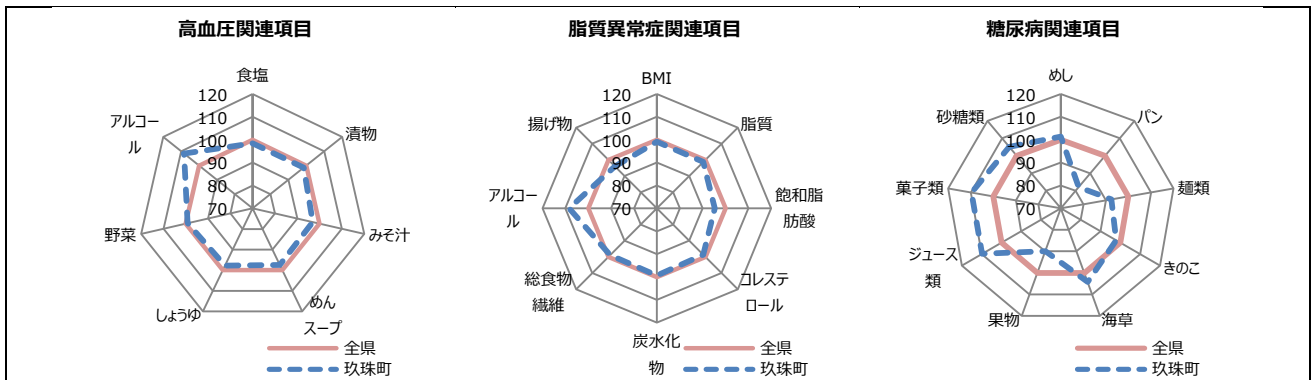
標準化死亡比：全国を100(基準)として標準化された死亡率のこと。100より大きければ全国より死亡率が高く、100より小さければ死亡率が低いことを示す。

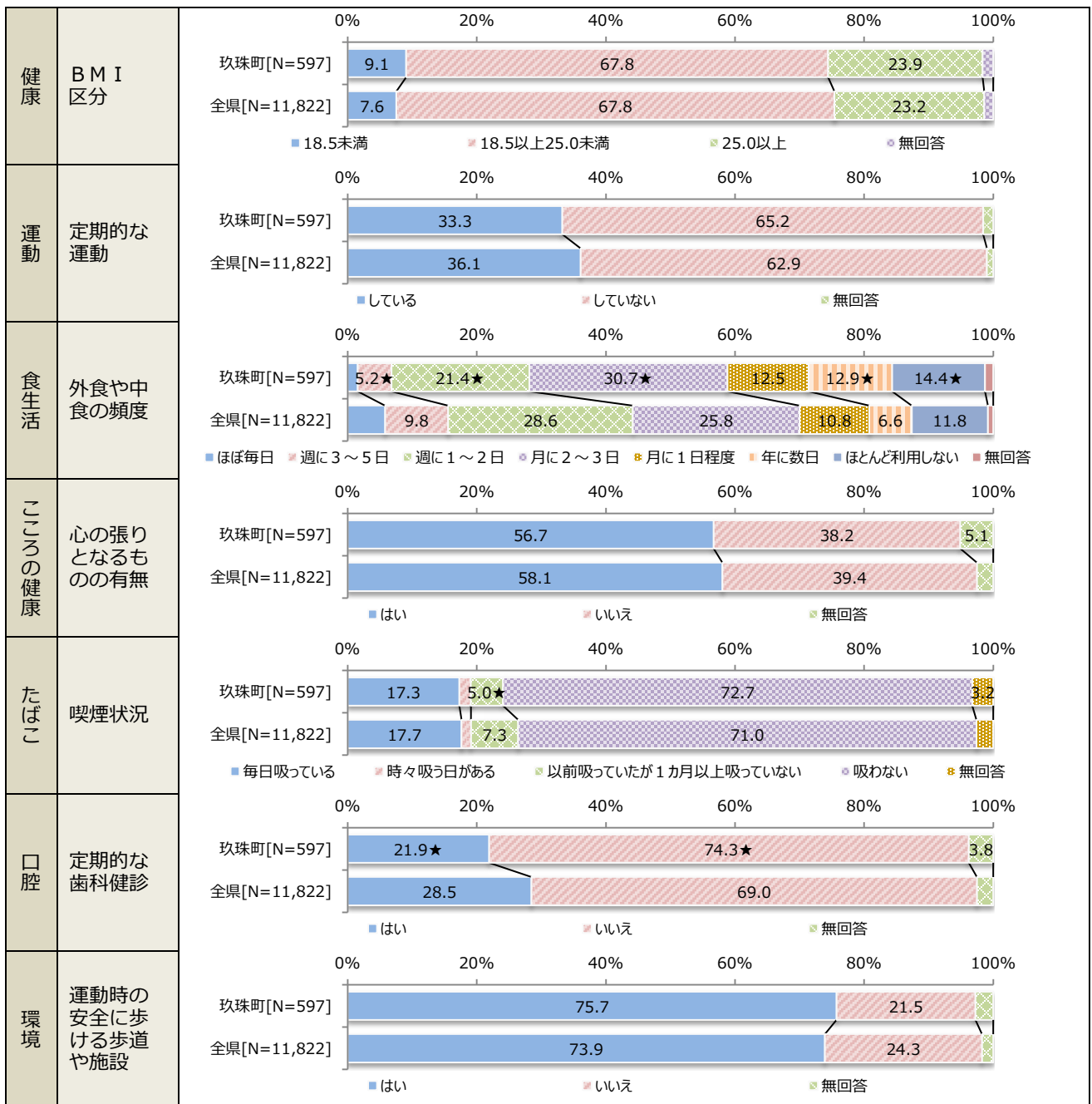
標準化該当比：全県を100(基準)として標準化された、特定健診でのメタボリックシンドローム該当者の割合。100より大きければ県平均より割合が高く、100より小さければ低いことを示す。

有意差(有意水準5%未満)のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。(標準化死亡比は対全国、その他は対全県)

(2) 生活習慣実態調査及び栄養摂取状況調査結果より

- ・栄養調査の結果によれば、高血圧関連項目、脂質異常症関連項目で、アルコールの摂取量が県平均より多くなっている。糖尿病関連項目では、菓子類、ジュース類の摂取量が県平均より多くなっている。
- ・生活習慣調査の結果によれば、県平均と比べて、運動習慣のある人はやや少なくなっている。外食や中食を利用する人は少なくなっている。喫煙状況は、県平均とほぼ同じとなっている。





※県平均を母比率として有意差（有意水準5%未満）のあるものには、数値の横に「★」印を表示している。

(3) 調査等から見える姿

- ・急性心筋梗塞、脳血管疾患、乳がんの死亡率が全国よりも高くなっている。
- ・食生活に関しては、県平均と比べて、菓子類、ジュース類などを好む人が多く、男性ではアルコールの摂取が県平均よりも多くなっている。
- ・生活習慣では、運動習慣のある人が県平均と比べてやや少なくなっている。
- ・歯科検診を定期的に受けている人が県平均より少なくなっている。